

プロミュージシャン学科

1年次生

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	アンサンブルⅠ
担当講師名	石川具幸、内田充、寺沢功一、宮永治郎、山本英武、河野裕一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師陣は全員現役のプロミュージシャンであり、ライブからレコーディングに至るまで幅広い知識と経験を持ちます。

授業内容

ジャンルや演奏スタイルといったカテゴリーに分類された楽曲をもとにバンドアンサンブルについて学びます。1・2 クオーターでは 8 ビートの楽曲が中心です。時代の背景を捉えた名曲も数曲取り上げ演奏します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

カテゴリーに分けられた練習曲を演奏することでバンドでのリズムの捉え方やパート（楽器）ごとの役割、ジャンルを意識した演奏スタイルなどを学ぶと共に、ステージングやパフォーマンスについても研究します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オリエンテーション・課題曲の紹介。授業に必要な知識（予習の方法、楽器の取り扱い、試験までの流れ等）を説明するとともに、課題曲についての紹介を行います。
- ②8 ビートの基礎 1、楽曲を演奏しながら譜面の読み方、パートごとの役割などを学びます。例題演奏；Born To Be Wild など
- ③8 ビートの基礎 2、ビートの感じ方、リフ、コードフォームなどを練習します。例題演奏；Get Back など
- ④8 ビートの基礎 3、裏拍の感じ方、休符を交えたシンコペーションなどを練習します。例題演奏；Satisfaction など
- ⑤8 ビートの基礎 4、楽器間の音量バランス、バンド全体の一体感のつかみ方などを練習し課題曲を完成させます。
- ⑥1 クオーターのまとめ。クオーター末試験（ライブ）に備え、曲順やステージ構成、メンバー紹介などの演出について練習します。
- ⑦クオーター末試験。スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 25%、出席点 25%

※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧課題曲の紹介 2 クオーターではシャッフルビート・3連系の楽曲を中心に練習します。
- ⑨8 ビートの基礎 5、シャッフルの捉え方、リフ、ベースラインを練習します。
- ⑩8 ビートの基礎 6、楽曲の構成を理解します（Aメロ、Bメロ、サビなど）。例題演奏； Some Kind Of Wonderful など
- ⑪8 ビートの基礎 7、ペントナミックを中心としたフレーズやアドリブを練習します。例題演奏； Can't Get Enough など
- ⑫8 ビートの基礎 8、ボーカルを中心としたバランス作り、コーラスなどを練習します。例題演奏； Too Big など
- ⑬8 ビートの基礎 9、クオーター末試験（ライブ）に備え、曲順やステージ構成、演出についてメンバー間でディスカッションしながら決定します。
- ⑭2 クオーターのまとめ。ライブを想定しながら、メンバー間のコミュニケーションや、パフォーマンスを練習します。
- ⑮クオーター末試験。スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 25%、出席点 25%

※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	アンサンブル I
担当講師名	石川具幸、内田充、寺沢功一、宮永治郎、山本英武、河野裕一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師陣は全員現役のプロミュージシャンであり、ライブからレコーディングに至るまで幅広い知識と経験を持ちます。

授業内容

ジャンルや演奏スタイルといったカテゴリーに分類された楽曲をもとにバンドアンサンブルについて学びます。3・4 クオーターでは 16 ビート・ブルースやバラードなどの楽曲を中心授業を進めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

引き続きアンサンブルの基礎項目ともいえる楽曲の理解力を深めると共に、ジャンルやビートのもつ独特なノリや演奏スタイル、テンションコードを含めたボイシングやコードフォームなどを学びます。

授業計画（1回目から 7回目）

- ①楽曲の紹介。3 クオーターでは 16 ビートの楽曲を課題曲とします。
- ②16 ビートの基礎 1、穏やかなビートの中でのグループの捉え方や、2, 4 拍のアクセントの感じ方などを練習します。例題演奏；Long Train Runnin' など
- ③16 ビートの基礎 2、ブルーノートを多用したメロディアスなフレーズを練習します。例題演奏；Hard To Handle など
- ④16 ビートの基礎 3、バンド全体のタイトなグループや休符がらみのフレーズ・バッキングの練習をします。例題演奏；Respect など
- ⑤16 ビートの基礎 4、楽曲構成に合わせた表現力、メリハリを練習します。例題演奏；Rock'n Roll Is Dead など
- ⑥3 クオーターのまとめ。クオーター末試験（ライブ）に備え、曲順やステージ構成、メンバー紹介などの演出について練習します。
- ⑦クオーター末試験。スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 25%、出席点 25%

※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧楽曲の紹介。4 クオーターではブルースやバラード、また 1~3 クオーターで触れなかつたリズムの課題曲などを中心に練習します。
- ⑨ブルース・バラードの世界 1、ミドルテンポでの安定したリズムキープ、アルペジオ、楽曲の持つ雰囲気などについて練習します。
- ⑩ブルース・バラードの世界 2、ブルース進行でのコードフォームやウォーキングベースを練習します。
- ⑪ブルース・バラードの世界 3、オルタードテンションを使用したボイシングやレガートなメロディを練習します。
- ⑫ブルース・バラードの世界 4、II-V 進行でのフレーズやバンド全体のグループの捉え方を練習します。
- ⑬ブルース・バラードの世界 5、クオーター末試験（ライブ）に備え、曲順やステージ構成、演出についてメンバー間でディスカッションしながら決定します。
- ⑭4 クオーターのまとめ。ライブを想定しながら、メンバー間のコミュニケーションや、パフォーマンスを練習します。
- ⑮クオーター末試験。スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 25%、出席点 25%

※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プレゼンテーションⅠ
担当講師名	轟 光太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は音楽プロダクションでの A&R ディレクターの実務経験を持ちます

授業内容

学校内での行催事、学事、学科内の行催事に対する事前準備や作業、自己活動において必要となってくるプロフィールやその他資料の作成の仕方、外部プレゼンテーションの際に注意すべき事項などを例を追って指導。実際に資料作成なども行っていきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自己の音楽活動、進路における適切な資料作成とプレゼンテーションの仕方を知り、身につけます

授業計画（1回目から7回目）

- ① 個人別時間割、履修科目確認
- ② GW 前指導、学科ライブ、FIRST STEP エントリー
- ③ 面談スケジュール、学科 LIVE、FIRST STEP について
- ④ FIRST STEP について
- ⑤ 合同説明会について
- ⑥ 授業内試験、実技 アンサンブル試験スケジュール
- ⑦ 全授業、出席再確認

中間試験評価方法・評価基準

- ・出席：70% 平常点、提出物：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ FIRST STEP、夏フェスについて
- ⑨ プロフィール作成
- ⑩ マナーについて
- ⑪ 出席勧告
- ⑫ 夏休み前指導
- ⑬ 授業内試験、実技、アンサンブル試験スケジュール
- ⑭ FIRST STEP、アンサンブル試験
- ⑮ 試験後のスケジュール確認、施設使用予定

期末試験評価方法・評価基準

- ・出席：70% 平常点、提出物：30%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プレゼンテーションⅠ
担当講師名	轟 光太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

音楽プロダクションでの A&R ディレクターの実務経験を持ちます

授業内容

学校内での行催事、学事、学科内の行催事に対する事前準備や作業、自己活動において必要となってくるプロフィールやその他資料の作成の仕方、外部プレゼンテーションの際に注意すべき事項などを例を追って指導。実際に資料作成なども行っていきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自己の音楽活動、進路における適切な資料作成とプレゼンテーションの仕方を知り、身につけます

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期成績表配付 授業アンケート実施
- ② 個人面談スケジュール FIRST STEP
- ③ 個別面談
- ④ 個別面談
- ⑤ 個別面談
- ⑥ 授業内試験、実技 アンサンブル試験スケジュール
- ⑦ 3Q 授業科目試験

中間試験評価方法・評価基準

- ・出席：70% 平常点、提出物：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 学科 LIVE に向けて
- ⑨ 冬休み前指導
- ⑩ 出席確認
- ⑪ 出席確認
- ⑫ 進級について 1
- ⑬ 進級について 2
- ⑭ 最後の試験について、追試・再試、卒業
- ⑮ 4Q 授業科目試験

期末試験評価方法・評価基準

- ・出席：70% 平常点、提出物：30%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅠ
担当講師名	芦澤和則
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は音楽、CM、TV 業界において楽曲提供、サウンドプロデュースの経験を持ちます。

授業内容

SSW 専攻／オリジナル曲にアレンジを施しレコーディングします。

B.Vo 専攻／各々の専攻実技で受講しているカバー曲を中心にレコーディングします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

SSW 専攻／オーディション、業界配布を想定した音源作りに役立てます。

B.Vo 専攻／録音物で自分の Vo をチェックしレベルアップに役立てます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音源制作についての概要
- ②アーティストキャラクターの考察
- ③楽曲選考、アレンジメント
- ④レコーディング A-1 （生楽器[SSW]、カラオケ[B.Vo]）
- ⑤レコーディング A-2 （生楽器重ね[SSW]、歌[B.Vo]）
- ⑥レコーディング A-3 （歌＆コーラス[SSW]、歌[B.Vo]）
- ⑦中間試験

中間試験評価方法・評価基準

通常授業内における積極性、理解力、創造性を総合的に評価します。

出席:50% 平常点:30% 試験:20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧目標設定
- ⑨楽曲選考、アレンジメント
- ⑩レコーディング B-1

- ⑪レコーディング B-2
- ⑫レコーディング B-3
- ⑬ミックスについて # 1
- ⑭ミックスについて # 2
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

通常授業内における積極性、理解力、創造性を総合的に評価します。

出席:50% 平常点:30% 試験:20%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅠ
担当講師名	遠藤淳也
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関する実務経歴

講師はレコーディングエンジニア歴25年、自社スタジオを運営、レコーディングからプロデュースまでをこなします。

授業内容

主に実際のレコーディングでの流れを習得します。基本的なキューポックスの使い方や、自分のプレイを録音し、聴いてみる、そして部分的な修正のやり方を学びます。また、携帯やタブレット、PCとオーディオインターフェイスを使った自宅録音のやり方を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際のプロレコーディングの現場でスムーズ、かつ良いプレイが出来ること、人に頼らずに自分の音楽を発信出来ることを目指とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① レコーディングの流れや、ディレクター、エンジニアとの関係を解説します。
- ② キューポックスの基本操作を説明します。課題曲の選定。
- ③ 課題曲のレコーディング①
- ④ 課題曲のレコーディング②
- ⑤ 課題曲のレコーディング③
- ⑥ 中間試験。録音物提出①
- ⑦ 中間試験。録音物提出②

中間試験評価方法・評価基準

レコーディングの実施試験、及び録音物の提出。

この段階ではキューポックスの操作がうまく出来ているか、自分や他のパートを良く聴けているかを評価します。

出席 40%、平常点 40%、試験 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ DAWとオーディオインターフェイスの解説。
- ⑨ ブースのみを使い、自分たちでそれらを使い録音①
- ⑩ ブースのみを使い、自分たちでそれらを使い録音②
- ⑪ 課題曲2のレコーディング①
- ⑫ 課題曲2のレコーディング②
- ⑬ 課題曲2のレコーディング③
- ⑭ 期末試験。録音物提出①
- ⑮ 期末試験。録音物提出②

期末試験評価方法・評価基準

この段階ではある程度の録音精度も評価します。

また、平常点では自己発信を目指したDAWとオーディオI/Oによる仮想自宅録音に対する積極性、取り組みの熱意も評価します。

出席40%、平常点30%、試験30%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクション I
担当講師名	奈良部匠平
学期	春学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

作・編曲家・キー ボーディストとしてステージやレコーディング・スタジオでの経験豊富。関連アーティスト：渡辺美里、米米 CLUB、松田聖子、今井美樹、高垣彩陽、Skeleton Key (Band / Remix) 、ユンサン(윤상)、林憶蓮(Sandy Lam)

授業内容

個人の個性や目標に応じたアーティスト育成をめざし、2年生の最後には最大限花開き音楽業界に羽ばたいて行けるための基礎を1年生時にしっかりと構築する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分のアーティスト・イメージを持ち自己プロデュースできる能力を身につける。
歌唱、作詞、作曲、編曲、演奏、エンターテイナーとしての自己表現力を養う。

授業計画（1回目から7回目）

- ① アーティストとして初めの目標を話し具体的な楽曲をイメージする。
- ② 実技と連動して作詞 作曲を進める。
- ③ 実技と連動して作詞 作曲を進め、編曲も始める。
- ④ 簡単なオケに対して仮歌を入れ、詞、曲、編曲を修正する。
- ⑤ 歌のレコーディング I 固まってきたベーシックに本気の歌をのせてみる。
- ⑥ 歌のレコーディング II 前回の修正点をみつけ歌トラック、オケを完成する。
- ⑦ 楽曲のMixを完成し次曲へのテーマを話し合う。

中間試験評価方法・評価基準

はじめに制作・パフォーマンスに取り組んだか。
出席:20% 平常点:40% 試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ アーティストとしてチャレンジ可能な目標を話し具体的な楽曲をイメージする。
- ⑨ 実技と連動して作詞 作曲を進める。
- ⑩ 実技と連動して作詞 作曲を進め、編曲も始める。
- ⑪ 簡単なオケに対して仮歌を入れ、詞、曲、編曲を修正する。
- ⑫ 手を入れたオケに対して再度仮歌を入れ、詞、曲、編曲を修正する。
- ⑬ 歌のレコーディングⅠ 固まってきたベーシックに本気の歌をのせてみる。
- ⑭ 歌のレコーディングⅡ 前回の修正点をみつけ歌トラック、オケを完成する。
- ⑮ 楽曲のMixを完成し次曲へのテーマを話し合う。

期末試験評価方法・評価基準

見えてきた自己の課題にチャレンジできたか。

出席:20% 平常点:40% 試験:40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅠ
担当講師名	YASS
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

多くのアーティストの発掘・育成・プロデュースをしてきました。
これまで数十組、楽曲制作とアーティストプランディングをし、メジャーデビューさせました。

授業内容

目指すべき方向を定めて、トレーニングしていきます。
歌詞の生み出した方、メロディの作り方など、
曲作りに関して一から学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

表現したい世界観を歌に落とし込む。
突き詰めたオリジナル楽曲を作成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① アーティストマップの作成しよう。表現したい音楽、目指すアーティスト、やりたい自分のスタイルなどをマップに落とし込みます。今後の指針とします。
- ② 歌詞のテーマを決めよう。まずはテーマを決めて、文字数も自由に書き出します。伝えたいことの本質が見えるまで書いてもらいます。
- ③ 曲の方向性を定める。ジャンルや曲調、リズムやテンポを模索します。アーティストとしてもスタイルや声質との整合性を話し合います。
- ④ 作曲しよう。方向性が見えたら作曲を開始しよう。まずはコード感にとらわれず、自由にメロディを探してみよう。レコーダーを回したままハミング、スキヤットで歌わせます。
- ⑤ コードを確認。出てきたメロディをブラッシュアップし、コードをつけます。メロディ、世界観とマッチする響きでコード選びをしよう。
- ⑥ 確定したメロディを意識しながら、言葉をブラッシュアップします。その後、仮にメロディをのせる作業します。
- ⑦ 試験（メロディーと歌詞を完成させ、パフォーマンスしてもらいます）

中間試験評価方法・評価基準

- ・オリジナル作品の評価 完成度 個性
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 楽曲をより自分のモノにするために反復パフォーマンスをする。弾き語り、もしくはオケでの歌唱をトレーニング。
- ⑨ 仮歌を録る。シンプル内容コード楽器(ギター、ピアノ等)のみで一発 REC。現時点でのメロディライン、歌詞のリズムノリなどをチェック。録音した歌を自分で聴いてセルフディレクションをする。イメージの具現化、ヒアリングトレーニングの一環。
- ⑩ コードの再確認。言葉のブラッシュアップをする。
- ⑪ アレンジメント。曲に対するサウンドアプローチを自分でイメージしてみる。アーティストマップと照らし合わせながら方向性を探る。
- ⑫ 歌と楽器の表現力をアップするための訓練をする。伝える意識を持つためのメンタルトレーニング、ブースの中で平常心でレコーディングするためのイメージトレーニング。
- ⑬ レコーディング 1.モニタリングを学ぶ。ヘッドフォンの使い方、マイクとの距離、クリックの感じ方など。歌のニュアンス、プレスポイント、発声や表現方法を確認する。ワンセンテンスごとに確定していく。
- ⑭ レコーディング 2.オケをレコーディングする。録音においての楽器のプレイを学ぶ。(タッチ、アタック感、グルーヴ感等)
- ⑯ 試験（歌の本番レコーディングをする。ピッチ、リズム、発声、声の質感、ニュアンス、全てにおいての現時点でのベストテイクを録る。）

期末試験評価方法・評価基準

- ・オリジナル作品の評価 完成度 個性
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅡ
担当講師名	芦澤和則
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は音楽、CM、TV 業界において楽曲提供、サウンドプロデュースの経験を持ちます。

授業内容

SSW 専攻／オリジナル曲にアレンジを施しレコーディングします。

B.Vo 専攻／各々の専攻実技で受講しているカバー曲を中心にレコーディングします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

SSW 専攻／オーディション、業界配布を想定した音源作りに役立てます。

B.Vo 専攻／録音物で自分の Vo をチェックしレベルアップに役立てます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①目標設定
- ②楽曲選考、アレンジメント
- ③レコーディング C-1
- ④レコーディング C-2
- ⑤レコーディング C-3
- ⑥ミックス
- ⑦中間試験

中間試験評価方法・評価基準

通常授業内における積極性、理解力、創造性を総合的に評価します。

出席:50% 平常点:30% 試験:20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧目標設定
- ⑨楽曲選考、アレンジメント
- ⑩レコーディング D-1

- ⑪レコーディング D-2
- ⑫レコーディング D-3
- ⑬ミックス
- ⑭マスタリング
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

通常授業内における積極性、理解力、創造性を総合的に評価します。

出席:50% 平常点:30% 試験:20%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅡ
担当講師名	遠藤淳也
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関する実務経歴

講師はレコーディングエンジニア歴25年、自社スタジオを運営、レコーディングからプロデュースまでをこなします。

授業内容

教室（スタジオ）のミキサーや protools を学び、実際に自分たちでレコーディングしていくことでレコーディングにおける信号の流れや、プロデューサーやエンジニアがプレイヤーに何を求めるのかということへの理解を深めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

protols というレコーディングにおける共通言語を身に付けることを目標とします。また、レコーディング技術を身につけて自己発信することを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ミキサーの基本操作の説明。課題曲の選定。
- ② protols の基本操作の説明。
- ③ protols の新規セッションの作り方。
- ④ 課題曲 3 のレコーディング、ミキサー、protols の操作①
- ⑤ 課題曲 3 のレコーディング、ミキサー、protols の操作②
- ⑥ 課題曲 3 のレコーディング、ミキサー、protols の操作③
- ⑦ 中間試験：レポート提出
- ⑧

中間試験評価方法・評価基準

Protols の新規セッションの立ち上げからミキサーを使った音決め、録音までの工程をレポートにまとめて提出
出席 40%、平常点 30%、試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑨ 課題曲 4 のレコーディング、ミキサー、protools の操作①
- ⑩ 課題曲 4 のレコーディング、ミキサー、protools の操作②
- ⑪ 課題曲 4 のレコーディング、ミキサー、protools の操作③
- ⑫ 課題曲 4 のレコーディング、ミキサー、protools の操作④
- ⑬ 期末試験①
- ⑭ 期末試験②
- ⑮ 期末試験③
- ⑯ 期末試験④

期末試験評価方法・評価基準

第3クオーターで学んだ protools、ミキサーを中心としたエンジニアリングと確実なモニターコントロールによるプレイングの両面を見る実技試験。録音物の提出。
出席 40%、平常点 30%、試験 30%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクション II
担当講師名	奈良部匠平
学期	秋学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

作・編曲家・キー ボーディストとしてステージやレコーディング・スタジオでの経験豊富。関連アーティスト：渡辺美里、米米 CLUB、松田聖子、今井美樹、高垣彩陽、Skeleton Key (Band / Remix) 、ユンサン(윤상)、林憶蓮(Sandy Lam)

授業内容

個人の個性や目標に応じたアーティスト育成をめざし、2年生の最後には最大限花開き音楽業界に羽ばたいて行けるための基礎を1年生時にしっかりと構築する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分のアーティスト・イメージを持ち自己プロデュースできる能力を身につける。
歌唱、作詞、作曲、編曲、演奏、エンターテイナーとしての自己表現力を養う。

授業計画（1回目から7回目）

- ① アーティストとして次なる目標を話し具体的な楽曲をイメージする。
- ② 実技と連動して作詞 作曲を進める。
- ③ 実技と連動して作詞 作曲を進め、編曲も始める。
- ④ 簡単なオケに対して仮歌を入れ、詞、曲、編曲を修正する。
- ⑤ 歌のレコーディング I 固まってきたベーシックに本気の歌をのせてみる。
- ⑥ 歌のレコーディング II 前回の修正点をみつけ歌トラック、オケを完成する。
- ⑦ 楽曲のMixを完成し次曲へのテーマを話し合う。

中間試験評価方法・評価基準

はじめに制作・パフォーマンスに取り組んだか。
出席:20% 平常点:40% 試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 1年の総仕上げに、この時点で最大レベルの可能な目標を話し具体的な楽曲をイメージする。
- ⑨ 実技と連動して作詞 作曲を進める。
- ⑩ 実技と連動して作詞 作曲を進め、編曲も始める。
- ⑪ 簡単なオケに対して仮歌を入れ、詞、曲、編曲を修正する。
- ⑫ 手を入れたオケに対して再度仮歌を入れ、詞、曲、編曲を修正する。
- ⑬ 歌のレコーディングⅠ 固まってきたベーシックに本気の歌をのせてみる。
- ⑭ 歌のレコーディングⅡ 前回の修正点をみつけ歌トラック、オケを完成する。
- ⑮ 楽曲のMixを完成し1年の総括を話し、2年生そして卒業への目標を話す。

期末試験評価方法・評価基準

1年の最後にふさわしいトライができたか。エンターテイナーとしての形が見えてきたか。

出席:20% 平常点:40% 試験:40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	プリプロダクションⅡ
担当講師名	YASS
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

多くのアーティストの発掘・育成・プロデュースをしてきました。
これまで数十組、楽曲制作とアーティストブランディングをし、メジャーデビューさせました。

授業内容

楽曲作りについて、作詞作曲のレベルをアップさせる。
レコーディングでベストパフォーマンスができるようにベーシックトレーニングを積む。
REC知識を増やそう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

one&only(個性的)な楽曲作りを目指します。
名曲を完成させる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① アーティストマップの新たに作成しよう。表現したい音楽、目指すアーティスト、やりたい自分のスタイルなどを再確認しマップに落とし込みます。秋期の指針とします。
- ② 春期にレコーディングした楽曲を分析してみよう。時間空けて聴く事で客観性を持つことができる。
- ③ 歌を再度 REC します。その際、歌詞とメロディをブラッシュアップ。クリエイティブティに関しての意識を上げよう。
- ④ 新しい曲作り。作詞。歌詞のテーマを決めて、文字数も自由に書き出します。伝えたことの本質が見えるまで書いてみよう。
- ⑤ 作曲。メロディを今期はコード進行を確認しながら作ろう。書き出した言葉を仮に載せながら歌ってみよう。
- ⑥ メロディ、歌詞を完成させる。音域や声質を十分に意識しながら効果的なライン、ワードを choice する。
- ⑦ 試験（生歌でパフォーマンスをしてもらいます）

中間試験評価方法・評価基準

- ・オリジナル作品の評価 完成度 個性
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 仮歌を録る。シンプル内容コード楽器(ギター、ピアノ等)のみで一発録音。現時点でのメロディライン、歌詞のリズムノリなどをチェック。録音した歌を自分で聴いて、再度セルフディレクションをする。イメージの具現化、ヒアリングトレーニングの一環。
- ⑨ 楽曲のブラッシュアップ。歌詞、メロディなどをよりレベルアップさせる。コード感、曲構成の再確認。
- ⑩ アレンジ。曲に対するサウンドアプローチをイメージする。新アーティストマップと照らし合わせながら方向性を決定。
- ⑪ 歌のニュアンス、プレスポイント、発声や表現方法を確認する。ワンセンテンスごとに確定していく。
- ⑫ レコーディング 1. オケ録り。ベーシックトラックを作る。ジャンルによって方法は様々だが、構成力やバランス力の必要を学ぶ。
- ⑬ レコーディング 2. リズム、クリックに合わせてギター、ピアノ等をプレイする。生楽器のRECよって、グルーヴとは何かを感じ学ぼう。
- ⑭ 歌レコーディング 3. ピッチ、リズム、発声、声の質感、ニュアンス、全てにおいてのベストテイクを目指してRECす。春期に学んだモニタリングを活かす。
- ⑮ 試験（ダビングREC。声を重ねて、メインヴォーカルにハモリ、ダブリ、コーラスを入れてみよう。自分自身の歌をより把握することが大切です。曲の完成をもって試験とします）

期末試験評価方法・評価基準

- ・オリジナル作品の評価 完成度 個性
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	アーティスト&レパートリー研究Ⅰ
担当講師名	長沼敬子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は、専門学校・テーマパーク・ミュージカル・演劇業界でのヴォイストレーナーとして32年の経験を持ちます。

授業内容

バンドヴォーカリスト、シンガーとして楽曲の理解力と歌唱力を高めるために様々なジャンルの楽曲を歌い、その歌唱法を指導。新旧、洋楽邦楽問わず個性を伸ばす指導をする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

複数のジャンルで、トータル数十曲をレパートリーにできる、ビブラートの有効な使い方を習得できる。オリジナル作品の歌唱に活かせる歌唱法を習得できる。数々のヒット曲から名曲と言われる楽曲にまで造詣が深くなる

授業計画（1回目から7回目）

- ①発声法歌唱法ビブラートのコントロールTOPの音域を知る
- ②1950年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ③1960年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ④1960年代の楽曲 邦楽の考察と歌唱
- ⑤1960年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ⑥1960年代の楽曲 邦楽の考察と歌唱
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱 50% 平常点 25% 出席率 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧1970年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ⑨1970年代の楽曲 邦楽の考察と歌唱

- ⑩1970 年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ⑪1970 年代の楽曲 邦楽の考察と歌唱
- ⑫1980 年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ⑬1980 年代の楽曲 邦楽の考察と歌唱
- ⑭1970 年～1980 年まで総括楽曲から選曲
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱 50% 平常点 25% 出席率 25%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	アーティスト&レパートリー研究Ⅱ
担当講師名	長沼敬子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は、専門学校・テーマパーク・ミュージカル・演劇業界でのヴォイストレーナーとして32年の経験を持ちます。

授業内容

バンドヴォーカリスト、シンガーとして楽曲の理解力と歌唱力を高めるために様々なジャンルの楽曲を歌い、その歌唱法を指導。新旧、洋楽邦楽問わず個性を伸ばす指導をする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

複数のジャンルで、トータル数十曲をレパートリーにできる、ビブラートの使い方を習得できる。オリジナル作品の歌唱に活かせる歌唱法を習得できる。数々のヒット曲から名曲と言われる楽曲にまで造詣が深くなる

授業計画（1回目から7回目）

- ①1990年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ②1990年代の楽曲 邦楽の考察と歌唱
- ③1990年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ④1990年代の楽曲 邦楽の考察と歌唱
- ⑤2000年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ⑥2000年代の楽曲 邦楽の考察と歌唱
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱 50% 平常点 25% 出席率 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧2000年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ⑨2000年代の楽曲 邦楽の考察と歌唱

- ⑩2010年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ⑪2010年代の楽曲 邦楽の考察と歌唱
- ⑫2010年代の楽曲 洋楽の考察と歌唱
- ⑬2010年代の楽曲 邦楽の考察と歌唱
- ⑭2010年～2020年まで総括楽曲から選曲
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱 50% 平常点 25% 出席率 25%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	アレンジ作曲技法 I
担当講師名	芦澤和則
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻、キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽、CM、TV 業界において楽曲提供、サウンドプロデュースの経験を持ちます。

授業内容

初步からの作曲法～自身のオリジナル楽曲のアレンジメント、オケ制作に到るまでを見据え進めて行きます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自身のオリジナル楽曲のオケ制作を目指します

授業計画（1回目から7回目）

- ①作曲法#1（成り立ち、仕組み）
- ②作曲法#2（サビと平歌）
- ③作曲法#3（プロ楽曲研究）
- ④作曲法#4（シングル曲とは）
- ⑤作曲法#5（指定のコード進行でサビを作る）
- ⑥作曲法#6（前回曲に作詞）
- ⑦試験（楽曲を発表します）

中間試験評価方法・評価基準

提出楽曲のクオリティ、出席率、理解力等を総合的に評価します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧作曲法#7（1Q で作った曲をフルサイズに完成）
- ⑨アレンジ法#8（完成曲のコードアレンジ）
- ⑩アレンジ法#9（コード理論）
- ⑪アレンジ法#10（スケール、キーについて）

- ⑫アレンジ法 #11 (ダイアトニックについて)
- ⑬アレンジ法 #12 (コードのリアレンジ)
- ⑭アレンジ法 #13 (歌詞内容との整合性)
- ⑮試験 (楽曲を発表します)

期末試験評価方法・評価基準

提出楽曲のクオリティ、出席率、理解力等を総合的に評価します

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	アレンジ作曲技法Ⅱ
担当講師名	芦澤和則
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻、キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽、CM、TV 業界において楽曲提供、サウンドプロデュースの経験を持ちます。

授業内容

初步からの作曲法～自身のオリジナル楽曲のアレンジメント、オケ制作に到るまでを見据え進めて行きます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自身のオリジナル楽曲のオケ制作を目指します

授業計画（1回目から7回目）

- ①作詞法#1 (lyric と poem の違いとは)
- ②作詞法#2 (サビと平歌)
- ③作詞法#3 (プロ楽曲研究)
- ④作詞法#4 (シングル曲とは)
- ⑤作詞法#5 (指定のワードを入れてサビを作る)
- ⑥作詞法#6 (前回曲に作曲)
- ⑦試験 (楽曲を発表します)

中間試験評価方法・評価基準

提出楽曲のクオリティ、出席率、理解力等を総合的に評価します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧アレンジ法#14 (打込みとは)
- ⑨アレンジ法#15 (ベースの打込みテクニック～基本ルート音刻み)
- ⑩アレンジ法#16 (ベースの打込みテクニック～フレーズを混ぜる)
- ⑪アレンジ法#17 (ドラムの打込みテクニック～基本パターン)

- ⑫アレンジ法#18（ドラムの打込みテクニック～フィルイン）
- ⑬アレンジ法#19（シンセ系の打ち込みテクニック）
- ⑭アレンジ法#20（ストリングス系の打ち込みテクニック）
- ⑮試験（楽曲を発表します）

期末試験評価方法・評価基準

提出楽曲のクオリティ、出席率、理解力等を総合的に評価します

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	作詞 I
担当講師名	miifuu
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドボーカル専攻

担当科目に関する実務経歴

数々の女性アイドル楽曲の作詞作曲、編曲、サウンドプロデュース、楽曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

バンドのボーカルとして、自分の言葉で、自分の気持ちをのせた歌が歌えるように作詞の作り方、基本を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

曲の世界観をしっかりと作り込み、自分自身の言葉でメロディと親和性の高いオリジナリティある作詞技術を身に付けます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 自分とっての良い歌詞とは何か分析する
- ② 作詞の基本：大きなテーマを決める 1 （テーマに沿った楽曲の分析）
- ③ 作詞の基本：大きなテーマを決める 2 （1枚の写真を見てテーマと細かな設定を考える）
- ④ 作詞の基本：詞の構成について
- ⑤ 作詞の基本：サビの作り方
- ⑥ 作詞の基本：Aメロの作り方
- ⑦ 作詞の基本：Bメロの作り方

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業内の取り組み姿勢

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 作詞の技術：字脚について 1
- ⑨ 作詞の技術：字脚について 2

- ⑩ 作詞の技術：比喩について 1
- ⑪ 作詞の技術：比喩について 2
- ⑫ 作詞の技術：反復法について
- ⑬ 作詞の技術で学んだ知識を使い自分があまり選ばないテーマで作詞をしてみよう
- ⑭ 作詞の技術：メロディに対してどのように言葉をのせるのか
- ⑮ 課題提出、添削

期末試験評価方法・評価基準

- ・課題提出（今期学んだ内容を踏まえ、英語の楽曲に日本語詞をのせる）
- ・出席：40% 平常点：30% 課題 30%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	作詞 I
担当講師名	YASS
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

作詞家として多数の作品をメジャーリリースしています。
メジャーレコード会社、音楽出版社とのプロジェクトで、音楽プロデューサーとしてたくさんのアーティストの歌詞をディレクションしています。

授業内容

言葉を知り、表現方法を探る。
自分の伝えたいことを確認して、自己を分析させます。数多く書くことの大切さを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

創造力、妄想力を追求することで、アーティストとしてのクリエイティビティが高くなる。
自分の文体、スタイルを見つけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 大好きな詩について語ろう。自分が感動した詩。心に残る影響を受けた歌詞について語ってもらいます。
- ② 詩を書くために必要なことを知ろう。妄想力、想像力、記憶力、想い出力などの考察。テーマごとに自己分析してもらいます。
- ③ 手紙を書こう。過去の自分へ、未来の自分へ、いまを生きる自分へ、手紙を書いてもらいます。ありのままの思いを綴ります。そこから歌詞のスタイル、文体を見つけます
- ④ 情景描写、風景描写について学びましょう。歌詞に奥行きを作り、映像的空間を作り出すためにチャレンジしてもらいます。
- ⑤ 比喩表現について学びましょう。より表現力を上げるために、伝えるために直喻・隱喻・擬人法を知ろう。例題楽曲を参考に書いてもらいます。
- ⑥ 心情描写について学びましょう。言葉と距離をより近づけるための表現。気持ちを伝えることの重要さを知ろう。
- ⑦ 試験（決められたテーマで歌詞を書いてもらいます）

中間試験評価方法・評価基準

- ・課題の提出（表現力、個性）
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 自分がリスペクトする楽曲のアンサーソングを書こう。手紙の返信のように歌詞を書いてもらいます。
- ⑨ 洋楽に日本語詩をつけてみよう。音楽史に残る洋楽の名曲に歌詞をつけてもらいます。メロディのニュアンスに沿うこと、言葉とリズムのマッチングの大切さを学びます。
- ⑩ ポエトリーリーディングをしよう。時間内に書いてもらったショートポエムをリーディングしてもらいます。言葉を読み、語ることで伝える。
- ⑪ ストーリーテリングをしよう。物語を作ってもらいます。短編小説を自由に想像、発想することで妄想力を育てます。
- ⑫ 脚本を書こう。会話のみで表現して書いてもらいます。リアリティのある表現力を学びます。
- ⑬ 造語、新語を作ろう。まだ存在しない言葉を創ってもらいます。『個性』『斬新さ』がテーマのトレーニングです。
- ⑭ ダブルミーニング。一つのフレーズやセンテンス、もしくは歌詞全体に二重、三重の意味を含ませる表現を練習します。
- ⑮ 試験（決められたテーマで歌詞を書いてもらいます）

期末試験評価方法・評価基準

- ・課題の提出（表現力、個性）
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	作詞 II
担当講師名	miifuu
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドボーカル専攻

担当科目に関する実務経歴

数々の女性アイドル楽曲の作詞作曲、編曲、サウンドプロデュース、楽曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

作詞 I で学んだ内容をもとに課題に沿った作詞を時間内に行い、添削します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

曲の世界観をしっかりと作り込み、自分自身の言葉でメロディと親和性の高いオリジナリティある作詞技術を身に付けます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① テーマに沿っての作詞：ジブリ
- ② テーマに沿っての作詞：ドラえもん
- ③ テーマに沿っての作詞：短編小説
- ④ テーマに沿っての作詞：ピクサーのショートストーリー
- ⑤ テーマに沿っての作詞：CM 作品
- ⑥ テーマに沿っての作詞：ドラマ
- ⑦ テーマに沿っての作詞：映画

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業内での取り組み姿勢

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ メロディに沿った作詞：童謡
- ⑨ メロディに沿った作詞：単純なメロディの邦楽
- ⑩ メロディに沿った作詞：前年度のヒット曲
- ⑪ メロディに沿った作詞：フォークソング

- ⑫ メロディに沿った作詞：ロック
- ⑬ メロディに沿った作詞：アイドル
- ⑭ メロディに沿った作詞：話題の曲
- ⑮ 課題提出、添削

期末試験評価方法・評価基準

- ・課題提出（今期学んだ内容を踏まえ、オリジナル楽曲に詞をのせる）
- ・出席：40% 平常点：30% 課題 30%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	作詞Ⅱ
担当講師名	YASS
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関連する実務経歴

作詞家として多数の作品をメジャーリリースしています。
メジャーレコード会社、音楽出版社とのプロジェクトで、音楽プロデューサーとしてたくさんのアーティストの歌詞をディレクションしています。

授業内容

あらゆるコラボレーションすることで、表現の引き出しを増やし、視点、角度を変えてみる。
人生のフィクションとノンフィクションの狭間を描く。
よりアーティスティックな言葉、深みのあるリリックを追求する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分だけの言葉、自分ならでは歌が書けるようになる。
何より大切な個性を持った詩人、表現者になる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリジナリティの追求。自分の歌詞の個性、特徴を自己分析してもらいます。
- ② フック・カウンターワードへの意識。インパクトある言葉、聴き手の胸に残る言葉の重要性を学びます。
- ③ リフレインフレーズについての考察。覚えてもらえる、口ずさんでもらえる歌詞作りにチャレンジしてもらいます。作品を創る上での「ポピュラリティー」への理解を深めます。
- ④ イメージ・ライティング。既存の映画作品をイメージして、勝手に主題歌 or エンディング曲・テーマソングを書いてもらいます。
- ⑤ イメージ・ライティング2。既存のアニメーション作品をイメージして、勝手に主題歌 or エンディング曲・テーマソングを書いてもらいます。
- ⑥ コラボレーションライティング。プロの作品との共作してみよう。プロの詩のサビ部分、もしくは平歌部分のフレーズだけが書いてある用紙に補作してもらいます。コラボにより完成させます。
- ⑦ 試験（自由テーマで詩を書いてもらいます。1年間学んだことの集大成を見せてもらい

ます。)

中間試験評価方法・評価基準

- ・課題の提出（表現力、個性）
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジョイントライティング。歌詞の前半もしくは後半だけを書き、クラスでシャッフル・交換して共作してもらいます。他の生徒が書いた歌詞の内容やスタイルを把握し、作品として完成させてもらいます。
- ⑨ ポエトリーリーディング2。与えられたテーマで書いた詩を授業の最後に一人づつリーディングしてもらいます。自らが読み語ることで、言霊を感じてもらいます。
- ⑩ クリエイティブ実戦1。実際にレコード会社、プロダクションのコンペティション用デモ楽曲に詞を書いてもらいます。
- ⑪ クリエイティブ実戦2。実際にレコード会社、プロダクションのコンペティション用デモ楽曲に詞を書いてもらいます。
- ⑫ クリエイティブ実戦3。実際にレコード会社、プロダクションのコンペティション用デモ楽曲に詞を書いてもらいます。
- ⑬ オリジナルソングを弾き語ろう。自曲を歌ってパフォーマンスしてもらいます。歌声、演奏、ステージングによる歌詞の伝わり方、言葉の響きをクラス全体で確認します。
- ⑭ オリジナルソングを弾き語ろう2。自曲を歌ってパフォーマンスしてもらいます。歌声、演奏、ステージングによる歌詞の伝わり方、言葉の響きをクラス全体で確認します。
- ⑮ 試験（自由テーマで詩を書いてもらいます。1年間学んだことの集大成を見せてもらいます。）

期末試験評価方法・評価基準

- ・課題の提出（表現力、個性）
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニングⅠ（バンドヴォーカル）
担当講師名	嶋村祐子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻

担当科目に関する実務経歴

講師はヴォイストレーナー／ヴォイストレーナーとしてSONY MUSICや東宝芸能などでの新人育成や俳優、タレントへのプライベートレッスンなど数多くの指導実績があります。

授業内容

ヴォーカリストは身体が楽器です。
自分本来の声を響かせ安定した音程と音域の広がりを得るために、基礎的な身体の使い方をトレーニングします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分本来の声を見つけ、歌の表現力へつなげていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オリエンテーション。自己紹介。発声の仕組み。
- ②歌での自己紹介。各自カヴァー曲またはオリジナル曲歌唱。自分の課題と改善するためのトレーニング。
- ③楽器として効率の良い姿勢。身体軸に必要な筋肉トレーニングとストレッチ。
- ④腹式呼吸。胸式呼吸。横隔膜呼吸。
- ⑤表情筋のトレーニング。
- ⑥下顎。上顎。口蓋。
- ⑦授業内ライブと録画。

中間試験評価方法・評価基準

ヴォイストレーニングの必要性を理解して意欲的に授業に取り組んでいるかを評価します。
上達には出席が不可欠。健康管理にも意識を持ってください。
出席率60% 平常点20% 試験20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧歌うときに必要な力と要らない力。
- ⑨声を響かせるポイント(1)
- ⑩声を響かせるポイント(2)
- ⑪母音と子音の関係性。
- ⑫母音と子音のトレーニング。
- ⑬日本語曲と英語曲における母音と子音(1)
- ⑭日本語曲と英語曲における母音と子音(2)
- ⑮授業内ライヴと録画。

期末試験評価方法・評価基準

自分の身体が楽器であるという自覚を持ち、安定した発声を歌の表現力につなげているかを評価します。

出席率50% 平常点25% 試験25%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニングⅠ(SSW)
担当講師名	長沼敬子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は、専門学校・テーマパーク・ミュージカル・演劇業界でのヴォイストレーナーとして32年の経歴を持ちます。

授業内容

身体を楽器として確立させるために、呼吸法・姿勢を始め発声の基礎練習を行います。また、既成の楽曲を用いて、いろいろなリズムパターン・テンポで応用力を養います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

正しい呼吸法・筋肉の使用ポイントをマスターし、正しい音程とリズムで歌唱できることと、楽曲において応用して歌唱できることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①呼吸法・姿勢の指導、発声の基礎を指導します。
- ②ダンノーゼルNo.10の視唱、講師が提示した課題曲を発表・聴覚します。
- ③ダンノーゼルNo.11の視唱、課題曲(Amazing Grace)の歌唱を指導します。
- ④ダンノーゼルNo.12の視唱、課題曲(Amazing Grace)の音程・発声を主に指導します。
- ⑤ダンノーゼルNo.13の視唱、課題曲(3月9日)の発音・発声を主に指導します。
- ⑥ダンノーゼルNo.14の視唱、課題曲(3月9日)のリズム・ビート・抑揚を指導します。
- ⑦ダンノーゼルNo.10～14の視唱、課題曲の独唱発表をします。

中間試験評価方法・評価基準

「ダンノーゼルのソルフェージュ」No.10～14と、課題曲を独唱します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ダンノーゼルNo.15の視唱、講師が提示した課題曲を発表・視聴します。
- ⑨ダンノーゼルNo.16の視唱、課題曲(You Raise Me Up)の歌唱を指導します。
- ⑩ダンノーゼルNo.17の視唱、課題曲(You Raise Me Up)の音程・発声を主に指導します。
- ⑪ダンノーゼルNo.18の視唱、課題曲(You Raise Me Up)の発音・発声を主に指導します。
- ⑫ダンノーゼルNo.19の視唱、課題曲(福笑い)のリズム・グルーヴの指導をします。
- ⑬ダンノーゼルNo.20の視唱、課題曲(福笑い)のダイナミックス・抑揚の指導をします。
- ⑭ダンノーゼルNo.21の視唱、課題曲(福笑い)の細部の歌唱指導をします。
- ⑮ダンノーゼルNo.15～21の視唱、課題曲の独唱発表をします。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。ダンノーゼルNo.15～21の視唱、課題曲の独唱発表をし、到達度を評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニング I
担当講師名	松村湧太
学期	春
授業の形態	演習 実
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は、言語学・音声学・ヴォイストレーニングを組み合わせ、シンプルかつ理論的に声をトレーニング出来、音楽業界、ヴォイストレーナー業界からも高く評価されている「ヴォイトレ・マスター®メソッド」の認定ヴォーカルコーチとして、大手商業ミュージカル主演俳優、劇団四季俳優、武道館出演アーティストなど、数多くの指導実績があります。

授業内容

毎回必ず、声帯のウォーミングアップと発声練習を行って声帯のバランスを整えた上で、様々な楽曲を通してのヴォイストレーニングや、効果的にその楽曲を歌うための表現方法を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

プロアーティストは、どんなジャンルやテンポの楽曲を歌うにも、頭に思い描いた通りの様々な声を自由に選べる選択肢や、ハードなツアースケジュールの中でも、声のバランスを崩さず、長時間毎日歌い続けられる技術が必要です。そのための声の土台を作っています。

授業計画（1回目から7回目）

- ①オリエンテーション 将来どんな活動をしたいか？憧れの人は？といった、皆さんのが「なりたい像」を聞かせて頂きます。
- ②発声～課題曲ヴォイストレーニング① 鍵盤を使用しての声帯のウォーミングアップ、発声練習によって音域を拡大し、声のバランスを整えた上で、課題曲の歌唱を通してのヴォイストレーニングを実践します。
- ③発声～課題曲ヴォイストレーニング② 発声練習によって声のバランスを整えた上で、前回と同じ楽曲の精度をより高めます。
- ④発声～試験曲ヴォイストレーニング① 発声練習によって声のバランスを整えた上で、実技試験の課題曲を通してのヴォイストレーニングを行います。
- ⑤発声～試験曲ヴォイストレーニング② 発声練習によって声のバランスを整えた上で、実技試験に向けて前回に引き続き、安定して歌える事は勿論、リズムの取り方、効果的な

アクセントのつけ方などを学び、試験曲の精度を更に高めます。

⑥発声～試験曲ヴォイストレーニング③ 発声練習によって声のバランスを整えた上で、実技試験の課題曲を、安定した声のバランスで、尚且つ自分が頭に思い描いた通りの表現で歌える様に仕上げていきます。

⑦実技試験 試験曲をライブ形式で一人一人披露して頂きます。

中間試験評価方法・評価基準

安定した声のバランスで楽曲を歌い通せているか？や、授業内で学んだ事を自分で練習してきて、その楽曲に合う表現方法で歌えているか？といった事を評価します。

出席:30% 平常点:30% 試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧発声～課題曲ヴォイストレーニング①-① 発声で声のバランスを整え、アップテンポの課題曲に取り組みます。効果的に聞こえるリズムの取り方やアクセントの付け方、発声を学びます。

⑨発声～課題曲ヴォイストレーニング①-② 発声で声のバランスを整え、前回のアップテンポ課題曲の精度を更に上げます。

⑩発声～課題曲ヴォイストレーニング②-① 発声で声のバランスを整え、静かなバラードの課題曲に取り組みます。囁くような声でも、マイクによく乗り、リスナーに歌詞が届く発声を学びます。

⑪発声～課題曲ヴォイストレーニング②-② 発声で声のバランスを整え、前回のバラード課題曲の精度を更に高めます。

⑫発声～課題曲ヴォイストレーニング③-① 期末試験では、音域も広くパワーの必要な、少し難易度の高い楽曲に取り組みます。発声で声のバランスを整え、試験曲でのヴォイストレーニングを行います。

⑬発声～課題曲ヴォイストレーニング③-② 発声で声のバランスを整え、試験曲の精度を更に高めます。

⑭発声～課題曲ヴォイストレーニング③-③ 発声で声のバランスを整え、試験曲を、思い描いた通りに歌い上げられるレベルに仕上げます。

⑮期末試験 試験曲をライブ形式で一人一人披露して頂きます。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験は、中間試験よりも難易度の高い楽曲に取り組んで頂きますが、授業の中で学んだポイントを押さえ、安定した声で楽曲を歌い通せているか？尚且つ、自分の思い描いた通りの表現、個性の出ている歌唱となっているか？を評価します。

出席:30% 平常点:30% 試験:40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニングⅡ（バンドヴォーカル）
担当講師名	嶋村祐子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻

担当科目に関する実務経歴

講師はヴォイストレーナーヴォイストレーナーとしてSONY MUSICや東宝芸能などでの新人育成や俳優、タレントへのプライベートレッスンなど数多くの指導実績があります。

授業内容

引き続き楽器としての『ヴォイス』を磨いて行きつつ、表現力を高めるために必要なヴォーカルテクニックをトレーニングします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

声そのものの魅力と、手に入れたテクニックで歌の表現力を高めて行きます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音域を広げる。高音域。
- ②音域を広げる。中音域。
- ③音域を広げる。低音域。
- ④ファルセットヴォイス。楽曲での応用。
- ⑤ミックスヴォイス。楽曲での応用。
- ⑥声の明度。彩度。楽曲での応用。
- ⑦授業内ライヴと録画。

中間試験評価方法・評価基準

授業でトレーニングしてきた基礎がどれだけ身体に定着し、歌への反映と応用で表現力につなげているかを評価します。

出席率30% 平常点20% 試験30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧クレッシェンドとディクレッシェンド。

- ⑨ノンヴィブラートとヴィブラート。
- ⑩グリスアップとグリスダウン。
- ⑪4BEAT 8BEAT 16BEAT。
- ⑫GROOVE(1)
- ⑬GROOVE(2)
- ⑭GROOVE(3)
- ⑮授業内ライヴと録画。

期末試験評価方法・評価基準

ヴォーカリストだけが歌詞のある楽器です。歌詞をしっかりと届けるためには安定したクオリティー高い土台が不可欠です。1年間の成果を『上手さ』の先にある可能性の広がりを評価します。

出席率20% 平常点20% 試験60%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニングⅡ(SSW)
担当講師名	長沼敬子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は、専門学校・テーマパーク・ミュージカル・演劇業界でのヴォイストレーナーとして32年の経歴を持ちます。

授業内容

ソルフェージュ課題から、より難易度の高い音程・リズムを正確に歌唱することを体得します。また、既成の楽曲を用いてダイナミックス・抑揚・グルーヴの指導をし、応用力を養います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

安定した呼吸法を基本的に、正しい音程・リズムで歌唱できることと、楽曲において幅広い表現力に繋げることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ダンノーゼルNo.22の視唱、課題曲の発表と観聴をします。
- ②ダンノーゼルNo.23の視唱、課題曲(Isn't She Lovely)の歌唱を指導します。
- ③ダンノーゼルNo.24の視唱、課題曲(Isn't She Lovely)の音程・発声を指導します。
- ④ダンノーゼルNo.25の視唱、課題曲(Isn't She Lovely)の発音・発声を指導します。
- ⑤ダンノーゼルNo.26の視唱、課題曲(Beautiful)のリズム・ビート・抑揚を指導します。
- ⑥ダンノーゼルNo.27の視唱、課題曲(Beautiful)のダイナミックス・抑揚を指導します。
- ⑦ダンノーゼルNo.22～27の視唱、課題曲の独唱発表をします。

中間試験評価方法・評価基準

「ダンノーゼルのソルフェージュ」No.22～27の独唱と課題曲の独唱発表をします。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ダンノーゼルNo.135(ト長調のスケール)の視唱、課題曲(OpenArms)の発表と視聴をします。
- ⑨ダンノーゼルNo.138(ト長調の練習曲)の視唱、課題曲(OpenArms)の歌唱を指導します。
- ⑩ダンノーゼルNo.139(ト長調の練習曲)の視唱、課題曲(OpenArms)の音程・発声を指導します。
- ⑪ダンノーゼルNo.152(ヘ長調のスケール)の視唱、課題曲(ThisLove)の発音・発声の指導をします。
- ⑫ダンノーゼルNo.158(ヘ長調の練習曲)の視唱、課題曲(ThisLove)のリズム・ビートを指導します。
- ⑬ダンノーゼルNo.167(ニ長調のスケール)No.168(ニ長調の練習曲)の視唱、課題曲(ThisLove)のダイナミックス・抑揚を指導します。
- ⑭ダンノーゼルNo.176(変ロ長調のスケール)No.179(変ロ長調の練習曲)の視唱、課題曲の歌唱の仕上げを指導します。
- ⑮ダンノーゼルNo.135～179の視唱、課題曲の独唱発表をします。

期末試験評価方法・評価基準

ダンノーゼルNo.135～179の視唱、課題曲の独唱発表をします。

授業で学んだ課題を歌唱し、到達度を評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ヴォイストレーニングⅡ
担当講師名	松村湧太
学期	秋
授業の形態	演習 実
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は、言語学・音声学・ヴォイストレーニングを組み合わせ、シンプルかつ理論的に声をトレーニング出来、音楽業界、ヴォイストレーナー業界からも高く評価されている「ヴォイトレ・マスター®メソッド」の認定ヴォーカルコーチとして、大手商業ミュージカル主演俳優、劇団四季俳優、武道館出演アーティストなど、数多くの指導実績があります。

授業内容

毎回まず、声帯のウォーミングアップ・発声を行って声のバランスを整えます。その上で、ご自身の作品の歌唱を通してのヴォイストレーニングは勿論、デュエット・アカペラにも取り組みアンサンブル能力を高め、将来ソロでの歌唱だけでなく、バンドやコーラスと一緒にステージに立つ際にも、個性を出しつつも周りと調和したパフォーマンスが出来る能力を養います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

将来ご自身がどんなタイプの楽曲を作られても、それを思い通りかつ、お客様の心に最大限届く歌声で歌えるような表現力、発声技術を身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①発声～デュエットヴォイストレーニング① 発声で声帯のバランスを整え、「デュエット」1曲目に取り組みます。個性も出しつつ、お互いを聴き合い寄り添って歌うアンサンブル能力を養います。
- ②発声～デュエットヴォイストレーニング②-① 発声で声帯のバランスを整え、前回より難易度の高いデュエット曲に取り組みます。言葉の立て方、リズムの取り方、強さ等を揃えて美しいハーモニーを作ります。
- ③発声～デュエットヴォイストレーニング②-② 発声で声帯のバランスを整え、前回のデュエット曲の精度を更に高めます。難易度の高い曲でも、声だけに精一杯にならず、お互いを聴き合って歌える様に仕上げます。
- ④発声～自作曲ヴォイストレーニング① 発声で声帯のバランスを整え、皆さんのオリジナル曲でヴォイストレーニングを行います。

- ⑤発声～自作曲ヴォイストレーニング② 発声で声帯のバランスを整え、引き続きオリジナル曲の精度を高めます。何に気をつければ、よりその楽曲がリスナーの耳に残る歌唱になるか？学びます。
- ⑥発声～自作曲ヴォイストレーニング③ 発声で声帯のバランスを整え、試験に向けてオリジナル曲を、作曲する時に思い描いた通りの歌い方で歌える様に仕上げていきます。
- ⑦中間試験 試験曲をライブ形式で一人一人披露して頂きます。

中間試験評価方法・評価基準

初めて、シンガーソングライター専攻の本分である、ご自身のオリジナル曲でのパフォーマンスをして頂きます。授業内で学んだポイントを押さえて練習し、どれだけ最初に授業内でその曲を歌った時よりも、安定した声と豊かな表現力を持って歌える様になっているかを評価します。

出席:30% 平常点:30% 試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧発声～アカペラヴォイストレーニング①-① 発声で声帯のバランスを整え、デュエットともまた声の作り方などが違う『アカペラ』に取り組みます。どのパートがどういう声になると美しく溶け合うか？学びます。
- ⑨発声～アカペラヴォイストレーニング①-② 発声で声帯のバランスを整え、前回のアカペラ楽曲に取り組み、リズムの取り方、アクセントの付け方等を学び、より美しく仕上げます。
- ⑩発声～アカペラヴォイストレーニング②-① 発声で声帯のバランスを整え、よりアレンジの難易度が高いアカペラ楽曲に取り組み、アンサンブル能力を更に向上します。
- ⑪発声～アカペラヴォイストレーニング②-② 発声で声帯のバランスを整え、前回の曲の精度を更に高めます。複雑なリズム、音程の楽曲でも余裕を持って美しく纏まる様に仕上げます。
- ⑫発声～自由曲ヴォイストレーニング① 発声で声帯のバランスを整え、試験に向けて自由曲のヴォイストレーニングを行います。
- ⑬発声～自由曲ヴォイストレーニング② 発声で声帯のバランスを整え、試験曲の精度を更に上げます。その楽曲を一番魅力的に歌うには、どういう声で、どこを盛り上げれば良いのか？具体的に考えながらヴォイストレーニングを進めます。
- ⑭発声～自由曲ヴォイストレーニング③ 発声で声帯のバランスを整え、試験曲を仕上げます。自分が「こう歌いたい！」と思い描いた通りに歌える様、声のバランスも表現も調整します。
- ⑮期末試験 試験曲をライブ形式で一人一人披露して頂きます。

期末試験評価方法・評価基準

1年目の集大成として、カバー曲でもオリジナル曲でも、好きな曲を1曲歌って頂きます。「もっと聴きたい！」と思わせられる声、表現を身につけられたか？を評価します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ラップ I
担当講師名	マチーデフ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は映画やテレビ番組、CM 等のエンターテイメント業界でラップ指導の実務経験を持ちます。

授業内容

ラップのリズムを体系的に分類し、発声、歌唱することでリズムを捉える感覚を磨きます。最初は簡単な譜割りの曲で基礎を学び、徐々に難しい譜割りの曲へとレベルアップしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・抑揚やアクセントの付け方を学び、ラップの歌唱力向上を目指します。
- ・様々なリズムを習得し、リズム感の向上を目指します。

授業計画（1回目から 7回目）

- ①自己紹介、歌とラップの違い
- ②リズムの種類
- ③ウラ拍を捉えるリズムトレーニング
- ④ウラ拍を捉えるリズムトレーニング 2
- ⑤3連符のリズムトレーニング
- ⑥6連符のリズムトレーニング
- ⑦16分刻みのリズム

中間試験評価方法・評価基準

中間試験評価方法：実技

評価基準：授業の出席率 70% 実技：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧2人でかけ合いラップ
- ⑨2人でかけ合いラップ 2
- ⑩3人でかけ合いラップ
- ⑪3人でかけ合いラップ 2
- ⑫母音を省略するラップ
- ⑬母音を省略するラップ 2
- ⑭倍速ラップ
- ⑮倍速ラップ 2

期末試験評価方法・評価基準

期末試験評価方法：実技

評価基準：授業の出席率 70% 実技：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ラップ II
担当講師名	マチーデフ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は映画やテレビ番組、CM 等のエンターテイメント業界でラップ指導の実務経験を持ちます。

授業内容

譜割りの複雑なラップ曲に挑戦し、よりテクニカルな歌唱力を身に付けます。
また、DJ 体験やオリジナルラップの制作も行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・音の省略の仕方を学び、ビートキープ力を身に付け、ラップの歌唱力向上を目指します。
- ・より難易度の高いリズムを習得し、リズム感の向上を目指します。

授業計画（1回目から 7回目）

- ①無声音を使ったラップ
- ②特徴的な発音のラップ
- ③アクセントの強弱
- ④アクセントの強弱 2
- ⑤メロディーのあるラップ
- ⑥メロディーのあるラップ 2
- ⑦メロディーのあるラップ 3

中間試験評価方法・評価基準

中間試験評価方法：実技

評価基準：授業の出席率 70% 実技：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧テクニカルなラップ
- ⑨テクニカルなラップ 2
- ⑩テクニカルなラップ 3
- ⑪DJ 体験
- ⑫韻の踏み方
- ⑬韻の踏み方 2
- ⑭オリジナルラップの作詞
- ⑮オリジナルラップの披露

期末試験評価方法・評価基準

期末試験評価方法：実技

評価基準：授業の出席率 70% 実技：20% 授業で教えた事の習熟度 10%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	楽器トレーニング I (キーボード)
担当講師名	松永加津子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

毎回、各自それぞれのペースで基本スケール練習し、その後、いろいろなジャンルの曲を楽しく弾いていきます。春学期では、ベースとドラムが入った場合の弾き方を学びます。左手で基本のコードの押さえ、右手でメロディーを弾く基本をしっかりと学習していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ロックの名曲の中から、まず、基本の主要 3 和音を使った曲を弾きます。徐々にステップアップし、ダイアトニックコードを学習しながら、曲中のコードを意識して弾きましょう。リズムは 8 ビートの曲を中心に、シャッフルの曲までチャレンジします。

授業計画（1回目から 7回目）

- ①メジャースケールを弾くことにより、指使いを覚えます。主要 3 和音も勉強しましょう。
- ②メジャースケールを、4 分音符で、8 分音符で、3 連音符で弾きます。合格したら次のスケールに進みます。
- ③転回コードの押さえ方を学びます。響きの良い音域を意識して弾きます。
- ④1 曲を通して楽しんで演奏しましょう。
- ⑤ブルース形式の曲を学びます。7 th コードを覚えましょう。
- ⑥ロックンロールの曲を、様々な弾き方でチャレンジします。
- ⑦授業で練習した課題曲を弾きます。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の積み重ねがとても大切になりますので、出席を重視します。曲を上手に弾くことも

もちろん大切ですが、それぞれの上達の具合を加味して、採点します。
出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ポップスの少し長い曲にチャレンジします。リードラインをあまり動かさずに弾くコツを覚えましょう。
- ⑨前回の曲の後半部分まで弾いていきます。弾ける方は、どこを盛り上げたらいいか、考えることができるといいですね。
- ⑩ビートにのって弾きましょう。メロディーを歌いながら弾くのもいいです
- ⑪8分音符をどのように弾くかを覚えていきます。また、シャッフルの曲の表示や書き方も学びましょう。
- ⑫難しい部分は繰り返し練習します。
- ⑬少しづつ、アドリブもしていきます。いきなりすごいことを弾くのではなく、音数少なく、かっこよく。
- ⑭試験前に課題曲をしっかりと練習しましょう。
- ⑮まず、テーマをしっかりと弾くこと。そして、アドリブ部分は、左手のコードを押さえながらでも、片手でもオッケー。

期末試験評価方法・評価基準

出席を重視、普段の取り組みも重視します。テーマをしっかりと丁寧に弾くこと。また、リズムをしっかりと捉えること。そして、プラスアルファでアドリブチャレンジも楽しんでほしいです。出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

もし、自宅にキーボードが有れば練習してみてください。キーボードが無くても、授業内でしっかりと練習すれば上手になりますよ。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	楽器トレーニング I (ギター)
担当講師名	YASS
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

アーティストとして自らのレコーディング、ライブでプレイ。数多くの楽曲がメジャーリースされています。

プロミュージシャンとしても多くのレコーディング、全国ライブツアーにサポート参加しています。

授業内容

基礎トレーニングに重点を置きつつ、ギターの魅力を伝えます。楽器を鳴らすこと、いい音を出すことを大切に練習させます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

大きなグルーヴ感と繊細なテクニック、両方を習得することでギターでの表現力の幅が広がる。

楽器を唄わせることができるようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① チューニング。ギターを持つフォーム。ピックの持ち方 etc。基礎知識。
- ② 指板に対しての指の運びや角度。運指練習、スケール練習をしてみよう。
- ③ ピッキングを学ぼう。リスト、アームのフォームやアタックをチェック。
- ④ ストロークの練習。ギターの鳴りを意識しよう。リズムにのせて弾いてみよう。フォーム、音質のチェック。
- ⑤ ストロークによるリズムトレーニング。あらゆるリズムにのせてかき鳴らしてみよう。楽器を鳴らそう。
- ⑥ フィンガリングの練習。指で綺麗に音を弾き鳴らそう。アルペジオで奏でよう。スリーフィンガーでリズムを出そう。
- ⑦ 試験（課題曲を弾いてもらいます）

中間試験評価方法・評価基準

- ・基礎テクニック リズム

- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コードを知ろう。指板上で同じコードを何種類か探してみよう。響の違いを学ぶ。
- ⑨ ニュアンスをつけよう。音色の違いを意識。『楽器を歌わせる』を目指します。
- ⑩ 弾き語ってみよう。オリジナル、カバー曲を歌いながら弾いてみよう。表現力を身につける。
- ⑪ 表現の幅を広げるテクニック。～ハマリングオン、プリングオフを練習しよう～曲に中でやってもらいます。
- ⑫ 表現の幅を広げるテクニック。～チョーキングを習得しよう～クオーターチョーキング、半音チョーキング、全音チョーキングを練習します。指、リストの使い方をチェック。
- ⑬ 表現の幅を広げるテクニック。～ビブラートをかけよう～単音ビブラート、トレモロビブラート、チョーキングビブラートを習得しよう。
- ⑭ 表現の幅を広げるテクニック『ミュートピッキング』各フレットで弾いてみよう。実際のフレーズで練習。
- ⑮ 試験（これまで学んだテクニックを駆使した12小節のソロを弾いてもらいます。）

期末試験評価方法・評価基準

- ・テクニック リズム 表現力 個性
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科 本1
科目名	楽器トレーニングⅡ (キーボード)
担当講師名	松永加津子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

まず、基本のスケールをしっかりと弾きます。早い方だと、後半でそろそろマイナースケールも弾いていくことになります。また、課題曲は季節にふさわしいクリスマスソングなども演奏していきます。一曲を完成させる楽しみを味わってください。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

課題曲では、ボサノヴァやサンバ、16 バウンスのリズムの曲を弾きます。リズミックフェイクやメロディックフェイクを知り、少し頑張って、アドリブにもどんどんチャレンジしましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ロックンロールとジャズのブルースのコードの違いを確認していきます。
- ②アドリブにチャレンジ、リズムで形を作ります。
- ③様々なキーでブルースを演奏してみましょう。
- ④ボサノヴァの曲、左手をしっかりと弾く練習をします。
- ⑤アドリブにチャレンジ。使うとかっこいい音と、そうでない音をチェック！
- ⑥テーマもアドリブも、繰り返し練習しましょう。
- ⑦まず、テーマをしっかりと弾くこと。リズムの乗っているか、響きのまずい音を引かないこと。

中間試験評価方法・評価基準

楽器の練習は積み重ねが大切です。日々の取り組みを重視しますので、もちろん出席も重視します。どれだけ取り組めたか、楽しみに聴かせていただきます。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧8ビートのクリスマスソングを楽しく弾きます。
- ⑨オーソドックスなスタンダードクリスマスソングをゴスペル風に弾きます。
- ⑩ベースもドラムも無し、ピアノだけの場合の弾き方にチャレンジします。
- ⑪リズミックはメロディーのリズムの変化、メロディックフェイクは装飾音符をつけたり、音を省いたり。
- ⑫16バウンスのリズムをつかみましょう。16部音符を3連ののりでハネて演奏します。
- ⑬左手のリズムに気をつけて演奏します。
- ⑭コードをしっかりと押さえ、リズムに乗って演奏することが大切です。何度も練習しましょう。
- ⑮一年間の集大成、とにかく楽しんで演奏してください。

期末試験評価方法・評価基準

メジャースケール、マイナースケール、どれだけ取り組めたか、課題曲にもどれだけ向き合って演奏できたかを評価していきます。一曲弾けた時の達成感を知って、ますます楽しく取り組んでいくきっかけになるといいですね。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

リズムに乗って楽しんで弾き続けてくださいね

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	楽器トレーニングⅡ(ギター)
担当講師名	YASS
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

アーティストとして自らのレコーディング、ライブでプレイ。数多くの楽曲がメジャーリースされています。

プロミュージシャンとしても多くのレコーディング、全国ライブツアーにサポート参加しています。

授業内容

高度なテクニックの習得と、感性によるインプロビゼーションの両立を意識します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽器と身体の一体化。

一音一音を大事に響かせられる。ナチュラルにグルーヴが出せる。

自分のプレイスタイルを掴むことで、これからのお活動の方向性、個性の発見にも繋がります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ギターの鳴り、響を確認しよう。音の違いを認識してもらいます。
- ② 表現の幅を広げるテクニック～ハーモニックス練習～実際のフレーズで弾いてもらいます。音色を追求しよう。
- ③ コードを知る。オンコード、開放弦を使ったオープンコードを弾いてみよう。課題曲で練習。
- ④ オープニングチューニングで弾いてみよう。オープンGチューニング、Dチューニングなどで課題曲にアプローチしてもらいます。
- ⑤ パワーコードで弾こう。ダウンピッキングによるリストトレーニング。リズムキープ。高速テンポにチャレンジ。
- ⑥ ブラッシング、カッティング、ボディアタックピッキングの練習。課題曲で習得してもらいます。
- ⑦ 試験（課題曲を弾いてもらいます）

中間試験評価方法・評価基準

- ・テクニック リズム 表現力 個性
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 16ビートのカッティング練習。リズムトレーニング。キレ良くツブが揃うまでやってもらいます。
- ⑨ グルーヴ感を掴もう。セッション形式でノリを出すトレーニングをします。
- ⑩ フィンガリング。ツーフィンガーで弾いてみよう。ポールマッカートニー等の楽器で練習します。
- ⑪ スタンダード楽曲、レジェンド楽曲のリフを弾こう。（ビートルズ、エリッククラプトン、ローリングストーンズ etc）その仕組みや意味合い、価値を学ぼう。
- ⑫ リズムトレーニング。テンポやリズムパターンの変化に対応できるようにドクタービートにのせて練習します。
- ⑬ 弾き語ってみよう。歌いながらギターを弾くことで表現力、楽器と歌のシンクロ具合、グルーブ感をチェックします。
- ⑭ インプロビゼーション。スリーコードでアドリブバッキング、アドリブソロにチャレンジしてもらいます。
- ⑮ 試験（1年間学んだテクニックを駆使して、春からの倍の24小節ギターソロを弾いてもらいます。）

期末試験評価方法・評価基準

- ・テクニック リズム 表現力 個性
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ダンス&パフォーマンス I
担当講師名	YUMiKA
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

ダンサーとしてアーティストのライブやミュージックビデオに出演する他、声優アーティストの振付や指導、ダンス教室の講師としての経験を持ちます。

授業内容

ストレッチや筋力トレーニング、リズムトレーニングなどパフォーマンスに必要な体作りやリズムの取り方を習得して行きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダンスの基礎、基本的な動きを学び、ただ体を動かすのではなく、しっかりと音楽に乗って踊れるようにして行きます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業の内容や流れを実際に体を動かしながら説明して行きます。
- ② ストレッチや筋力トレーニングなどウォーミングアップの方法を学んで行きます。
- ③ アイソレーションとは何か、どのように必要なのかを説明し学んで行きます。
- ④ 基本的なリズムの取り方を学んで行きます。
- ⑤ リズムをキープしながらステップが出来るようにして行きます。
- ⑥ ここまでに学んだ体の使い方、リズムの取り方など試験前の最終確認を行います。
- ⑦ 授業で行った範囲内で実技試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

授業内で伝えるポイントをしっかりと理解し、正しく体を動かすことが出来ているかを評価します。また、実技試験結果だけ出なく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ウォーキング① 音楽に合わせて魅せる歩き方を学んで行きます。
- ⑨ ウォーキング② ポージングや手の動きなどと組み合わせてウォーキングが出来るようにして行きます。
- ⑩ ターン① ターンの行い方を学びます。
- ⑪ ターン② ステップやウォーキングと組み合わせてターンが出来るようにして行きます。
- ⑫ 振付を覚えて踊れるようにして行きます。
- ⑬ 振付をただ覚えるのではなく、より正確に踊れるようにして行きます。
- ⑭ 試験範囲の注意点を確認し、振付の踊り込みをして行きます。
- ⑮ ダンスの実技試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

振付の正確さ、リズムを正確に取れているか、授業内で伝えるポイントをしっかりと理解し表現出来ているかを評価します。また、実技試験結果だけでなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ダンス&パフォーマンスⅡ
担当講師名	YUMiKA
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	バンドヴォーカル専攻、シンガーソングライター専攻

担当科目に関する実務経歴

ダンサーとしてアーティストのライブやミュージックビデオに出演する他、声優アーティストの振付や指導、ダンス教室の講師としての経験を持ちます。

授業内容

春学期で身につけたスキルと体力アップをもとに、振付の難易度も高くなって行きます。ダンスと歌を繋げてイメージした自分により近づけるように表現力を鍛えて行きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダンスを通してステージ上で自分自身をどう魅せたいのかを考え、表現出来るようにして行きます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春学期で学んだ事の確認をします。
- ② 細かいニュアンスやリズムを表現出来るように、どのように体を使うのかを学んで行きます。
- ③ 感情表現や曲に合った表現が出来るように学んで行きます。
- ④ 長めの振付を決められた時間内でより正確に覚えられるようにして行きます。
- ⑤ 自分ならどのように表現するかを考え、グループに分かれて見せ合います。
- ⑥ 試験範囲の注意点を確認し、踊り込みをします。
- ⑦ ダンスの実技試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

振付の正確さ、曲に合った表現が出来ているか、授業内で伝えるポイントをしっかりと理解しているかを評価します。また、実技試験結果だけでなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 自己表現① 自己表現の手段としてのダンスと歌を繋げて行きます。
- ⑨ 自己表現② 自分のステージ上での姿をイメージし、どうすれば出来るのかを考え表現して行きます。
- ⑩ 自己表現③ 前回考えたイメージを固めて魅せ方を研究して行きます。
- ⑪ 自己表現④ 他の人と表現を見せ合い、お互いの良いところを見つけて情報共有をします。
- ⑫ 振付の中のフリーの時間をどのように使うか考えて作って行きます。
- ⑬ 前回までの振付を復習しながら更に振付を進めて行きます。
- ⑭ 試験範囲の注意点を確認し、振付の踊り込みをします。
- ⑮ ダンスの実技試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

振付の正確さ、自己表現が出来ているか、授業内で伝えるポイントをしっかりと理解し表現出来ているかを評価します。また、実技試験結果だけでなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ベーシックテクニック I
担当講師名	三枝俊治、高山毅、杉野寿之、伊藤大助
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム、ベース専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は 30 年以上に亘りプログレッシブロックバンド KENSO に在籍し、高度な技術を要する演奏、作曲、アンサンブルの経験を持ちます。また、自身がコントラバス演奏をして率いるグループで、作曲作品の CD を発売しています。

授業内容

ベースとドラムのコンビネーションで、様々なリズムパターンを研究しながら演奏法を学びます。ヒット曲、スタンダード曲を題材に演奏することにより、様々なジャンル、スタイルを学び、良いグルーヴを身につけるよう練習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

しっかりととしたビートを感じながら、細かいリズム、シンコペーションなどを正確に演奏できるようにトレーニングします。テンポ／リズム感のトレーニングの為、メトロノームを裏で鳴らして演奏できるように練習します。

授業計画（1回目から 7回目）

- ①一年間の授業の全体像を説明し、何を学ぶ授業なのか把握してもらいます。簡単な課題曲を提示し、演奏してもらいます。（Every Breath You Take）
- ②You've Got A Friend を題材に、バラードの演奏を練習します。セクションごとの変化も意識しながら演奏します。
- ③Stand By Me を題材に、シンコペーションの演奏を練習します。音の無いビートを意識しながら演奏します。
- ④You Really Got Me を題材に、拍の裏から始まるフレーズを演奏します。
- ⑤Something を題材に、特殊なドラムパターン、歌うようなベースラインを演奏します。
- ⑥Breakfast in America を題材に、音の隙間を意識しながらの演奏を練習します。
- ⑦中間試験：My Sharona を題材に、早い 8 ビートとシンコペーションのキメの演奏をテストします。

中間試験評価方法・評価基準

すべてのリズムの土台となるビートをしっかりと感じながら演奏できているかが採点のポイントとなります。試験演奏 70%、平常点 30%の満点から、出席を重視し、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Black Night を題材に、ロックのビートとシャッフルのグルーヴを練習します。
- ⑨You Really Got A Hold On Me を題材に3連系リズムのバラードの演奏を練習します。
- ⑩Isn't She Lovely を題材に、ソウルミュージックのシャッフルと2拍3連のリズムを練習します。
- ⑪Sir Duke を題材に、バウンスと呼ばれる跳ねる感じのリズムの演奏を練習します。
- ⑫Hold The Line を題材に、3連符と2拍3連が混在するリズムの演奏を練習します。
- ⑬君は天然色を題材に、2拍3連の演奏を練習します。
- ⑭Home At Last を題材に、ハーフタイムシャッフルの演奏を練習します。
- ⑮学期末試験：Goodbye Elenore を題材に、早いシャッフルの演奏をテストします。

期末試験評価方法・評価基準

しっかりとビートを刻みながら、3連符のリズムを正確に演奏できているかが評価の基準になります。成績は演奏結果 70%、平常点 30%の満点から、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ベーシックテクニック I (Gt)
担当講師名	宮川章彦
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は音楽業界で、バンドデビューをして、バックバンド、レコーディング、音楽制作などの経験を持ちます。

授業内容

ギターについての基礎知識、チューニングから基本フォーム、左手、右手のテクニック、リズムなどを様々な楽曲を用いて学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

8ビートから16ビートまでの基本ピッキングテクニック、ストロークフォームの完成
ペンタトニックスケール、メジャースケール、マイナー2種の理解
パワーコード、トライアードコードの構成音の理解

授業計画（1回目から7回目）

- ①ギターの基礎知識と基本姿勢基本フォーム（運指練習、ディリートレーニングの理解）
- ②8ビートストロークとコードフォーム（コードフォーム、オルタネイトストローク）
- ③ペンタトニックスケール（ペンタトニックスケール5ポジションの理解）
- ④チョーキング、ビブラートテクニック（チョーキングとビブラートのフォームの理解）
- ⑤バッキングコードワーク（コードのバリエーション、動きなど）
- ⑥ブルーススケール、ブルースの演奏（課題曲 クロスロード、スカットルバッティン）
- ⑦中間試験 ブルース課題曲の演奏（課題曲 クロスロード、スカットルバッティン）

中間試験評価方法・評価基準

毎回の右手左手の基本フォームを重視します。試験課題的にはペンタトニックスケール5ポジションの理解とチョーキングテクニック、ビブラートテクニックを見ます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧トライアッダアルペジオ（トライアッダアルペジオエチュード）
- ⑨メジャースケールとポジション（3ノートパーストリングス指板までの理解）
- ⑩シャッフル、3連のリズムとストローク（課題曲 イズントシーにて3連ストローク）
- ⑪3連のブルース（アドリブを3連を中心に展開します）
- ⑫ハンマリングテクニック、スライドテクニック（左手のテクニック）
- ⑬マイナースケール2種（マイナースケールとハーモニックマイナースケール）
- ⑭16ビートストロークとテンションコード（16ビートカッティング）
- ⑮期末試験 16ビートカッティング（課題曲 ホワツツイズヒップにて16ビートカッティング）

期末試験評価方法・評価基準

入学時からの個人別のテクニック向上を評価します。
課題は3連、16ビートと細かいリズムへの対応です。出席、授業への意欲、毎回の小テスト的な演奏も重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ベーシックテクニック II
担当講師名	三枝俊治、高山毅、杉野寿之、伊藤大助
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム、ベース専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は 30 年以上に亘りプログレッシブロックバンド KENSO に在籍し、高度な技術を要する演奏、作曲、アンサンブルの経験を持ちます。また、自身がコントラバス演奏をして率いるグループで、作曲作品の CD を発売しています。

授業内容

16 ビートの演奏を通して、1 拍のビートを細かく分割して捉えるサブディヴァイドの感覚をトレーニングします。また、ブラジリアン、ラテン、レゲエ、モータウン、スwing 等のスタイルに触れ、バンドの中でどのように活かしていくかを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

サブディヴァイドされたリズムを正確に演奏できるようにします。また、様々なジャンル／スタイルのアイディアを自分のバンドに活かせるよう身につけます。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①I Want You Back を題材に、アレンジされたベースラインとシンプルなドラムパターンの組み合わせを演奏します。
- ②Let's Dance Baby を題材に、組み合わせがしっかりアレンジされている演奏を練習します。
- ③Chameleon を題材に、フレーズの決まったファンクの演奏を練習します。
- ④The Chicken を題材に、自由な形でのセッション的なファンクの演奏を練習します。
- ⑤Just The Two Of Us を題材に、フュージョン系の 16 ビートの演奏を練習します。
- ⑥Georgy Porgy を題材に、ロックの 16 ビートのサブディヴァイドを練習します。
- ⑦中間試験：Georgy Porgy の演奏をテストします。

中間試験評価方法・評価基準

しっかりととしたビートと 16 分音符のサブディヴァイドを意識した演奏ができているかが採点の基準となります。試験演奏 70%、平常点 30% の満点から、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧The Girl From Ipanema を題材に、ポップスの 8 ビートとは違うボサノヴァの演奏を練習します。
- ⑨Tristeza を題材に、サンバのパターンを練習します。ブラジリアンの特徴を学びます。
- ⑩You Can't Hurry Love を題材に、モータウンスタイルのシャッフルを練習します。
- ⑪Mister Sandman を題材に、レゲエの特徴的なドラムパターン、ベースパターンを練習します。
- ⑫Footprints を題材に、6/8 拍子のパターンと付点四分音符のフレーズの練習をします。
- ⑬Blue Bossa を題材に、1 拍目の頭が休符になるソンゴのリズムパターンを練習します。
- ⑭On Green Dolphin Street を題材に、アフロとスウィングが入れ替わるリズムを練習します。
- ⑮学期末試験：On Green Dolphin Street を題材に、様々なスタイルを入れ替えて演奏し、対応力をテストします。

期末試験評価方法・評価基準

スタイルの変化に対応する演奏力を確認し、評価します。演奏結果 70%、平常点 30% の満点から、出席を重視し、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。また、日常の努力の結果が見られるかどうかを加点していきます。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ベーシックテクニックⅡ(Gt)
担当講師名	宮川章彦
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師は音楽業界で、バンドデビューをして、バックバンド、レコーディング、音楽制作などの経験を持ちます。

授業内容

ギターについての基礎知識、チューニングから基本フォーム、左手、右手のテクニック、リズムなどを様々な楽曲を用いて学んでいきます。
秋学期は課題曲の難易度が高くなって行きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

16分6連符などの細かい音価、ボサノバ、4ビートなどの楽曲への対応
モードスケール、HP5などの理解
4ノーツコード、テンションコード構成音の理解

授業計画（1回目から7回目）

- ①ダイアトニックコードとテンション（楽曲アナライズの理解）
- ②ソロギターとテンションコード（課題曲 ムーンリバーにてソロギターを弾きます）
- ③バラードバックキング（課題曲 スルーザファイアーのコードバックキング）
- ④ダイアトニックコードのアルペジオ（4ノーツコードのアルペジオを練習します）
- ⑤3連ロックバックキング&リフ（課題曲 グッバイエリノアのバックキング&リフ）
- ⑥ロック高速リフ（課題曲 テクニカルディフィカルティーズのリフに挑戦）
- ⑦中間試験 ロック系6連符（課題曲においての速い16符音符と6連符）

中間試験評価方法・評価基準

毎回の右手左手の基本フォームを重視します。試験課題的には速い16符音符と6連符というテクニカルな部分にチャレンジしてもらいます

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧16 ビートカッティング&単音リフ（課題曲 ジャスアグループにて 16 ビートバッキング）
- ⑨JPOP バッキング（課題曲 オートマチック バッキング）
- ⑩ボサノバ/1（ボサノバ、バッキングパターン基本編、右手の動き）
- ⑪ボサノバ/2（ボサノバ、バッキングパターン応用編、テンションコード）
- ⑫4 ビートとスタンダード 1（課題曲 枯葉にてテンションコードバッキングワーク）
- ⑬4 ビートとスタンダード 2（課題曲 枯葉にてメロディ&オクターブ奏法）
- ⑭4 ビートとスタンダード 3（課題曲 枯葉にて HP5 を使ってのアドリブ）
- ⑮期末試験 4 ビートとスタンダード（課題曲 枯葉、トゥファイブの理解）

期末試験評価方法・評価基準

入学時からの個人別のテクニック向上を評価します。課題は曲に合ったフィーリングが出せるかという事と細かいリズムへの対応です。出席、授業への意欲、毎回の小テスト的な演奏も重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロビゼーションⅠ
担当講師名	高山毅
学期	春学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ベース専攻

担当科目に関する実務経験

ジャズ的な演奏の中でのインプロビゼーションや作編曲、コードアレンジをしています。

授業内容

ベースライン作りから作曲アレンジ、ベースでのアドリブやフィルイン等に必要な音楽理論を楽器を弾きつつ学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なジャンル、様々なリズムとスタイル、様々なコード進行の音楽に対応できるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①楽器を演奏する上での基本のフォーム、考え方
- ②フィンガリングの方法と練習方法
- ③ピッキング（指弾き）の方法と練習方法
- ④ピッキング（ピック弾き）の方法と練習方法
- ⑤ピッキング（スラップ）の方法と練習方法
- ⑥リズムのとり方、感じ方
- ⑦以上の内容のまとめ（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧コードとは？スケールとは？

- ⑨ダイアトニックコード
- ⑩ダイアトニックスケール
- ⑪ペントニックスケール
- ⑫コードプログレッション
- ⑬3種類のマイナースケール
- ⑭オルタードスケール、リディアンフラットセブンス、コンビネーションオブディミニッシュ
- ⑮以上の中のまとめ（テスト）

期末試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロヴィゼーション I
担当講師名	山村牧人
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム専攻

担当科目に関する実務経歴

1982年より演奏活動開始。今日に至るまで自主企画ライブ、アーティスト・サポート、レコーディング、楽器制作、演奏データ制作、リズムアレンジの書籍出版等の演奏及び関連制作業務。並行して1990年以降、楽器店でのドラムレッスンや講師の委託を受け、92年からドラム専門誌へのセミナー記事連載を開始し、20年以上の連載と自著ドラム教則本の出版多数。本校では93年からDTMの講師として、プロミュージシャン学科発足からドラム講師として勤務。

授業内容

ドラムセット演奏法の基礎である「叩き方」の確認と習得を行います。オールラウンドな演奏を目指し、特定のジャンルに限らず新旧ドラム界で発展してきたテクニックや音楽の現場で求められる奏法を理解し演習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1910年以降のドラムセット界で発展してきた演奏法の中心軸を理解し、ジャンルを問わず基本となる演奏のための身体技能と音楽に対する素養を習得することを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ベーシック・グリップ・セオリー / ロック、ポップスのジャンルで使われるスタイル・グリップの種類と使い分け、身体の使い方の違いを演習します。
- ②ベーシック・フットワーク / バスドラムのペダル・テクニックの種類と練習方法を学びます。
- ③初步的なコンビネーションとコール&レスポンス / ドラムセット演奏法の基礎となる、手足のコール&レスポンスの理解と演習。4分～8分音符主体です。
- ④アクセント&ストローク / ダイナミクスやアクセント表現のためのHeight ControlとTip Speedの加減速の演習。
- ⑤4～8thビートスタイル / アメリカン・ロックフィール=8th note feelを中心としたスタイル演習とグルーヴの理解を広めます。
- ⑥アクセント&フレーズ / アクセント移動を使ったフレーズ・トレーニング。譜面演習と、暗算的な即興アプローチによって、フレーズの展開を学びます。

⑦クオーター試験：リズムパターンとフィルイン演奏 ／ 指定されたフォームとスタイルの中で、基本的なリズムパターンやオリジナルのフレーズを盛り込み演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

授業での平常点を主として、試験演奏に現れる習得度や練習の達成度を加えて評価します。
試験点：30% ／ 平常点：50% ／ 出席点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧16分音符の基本と音型 ／ ベーシックなフットワークと16分音符を組み合わせた音型エクササイズ演習。
- ⑨16分アクセント&シンコペーション ／ 16分音型のアクセント・バリエーションとシンコペーションのドラムセットへの展開応用。
- ⑩3連符の基本と音型 ／ 3連系の音符の理解、手順の考え方や種類と、手足のコンビネーション演習。
- ⑪3連符アクセント&スピードアップ ／ 3連符のアクセント・ワークとスピード・アップに関するストロークセオリーの紹介。
- ⑫混合音符とエチュード・エクササイズ ／ 2拍3連、4拍3連の演習、4分～8分～3連～16分のチェンジアップと混合音型のエチュード演習
- ⑬3連系ビートスタイル ／ トリプレッツ、シャッフルのグルーヴ・スタイル演習
- ⑭16系ビートスタイル ／ 学内のアンサンブル系授業を想定したリズムパターン演習
- ⑮学期末試験：基本的フィール・チェンジ ／ 4th～8th～16th～3連系のリズムフィールを混在させたエチュードの実技演奏

期末試験評価方法・評価基準

ポピュラー・ミュージックで一般的、常識的に求められる奏法の理解と習得度により評価します。

試験点：30% ／ 平常点：50% ／ 出席点：20%

特記事項

※学生の習熟度によって内容や方法論は適宜変更調整していきますが、基本となる目標は変わりません。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロヴィゼーション I (Gt)
担当講師名	井上善彬
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師はサポートギタリストとしても活動。広くロックやジャズ、ワールドミュージックの伴奏や、その他弦楽器の演奏、作編曲を行う実務経験があります。

授業内容

ギターにおけるスケール全般を扱います。様々な楽曲で使われるスケールを学び、コードとスケールの関係を理解します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

メジャー及びマイナースケール、ペンタトニックを理解し演奏できるようにします。併せて読譜力も養います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ピックの握り方や運指等、基本的なテクニックの確認を行います。
- ② Cメジャースケールを5つのポジションに分けて学びます。
- ③ 3種のマイナースケールを学び、その違いを理解します。
- ④ ペンタとニックスケールを5つのポジションに分けて学びます。
- ⑤ ベンディング及びビブラート等のテクニックを学び、演奏します。
- ⑥ 楽曲を聴き、アナライズし演奏します。
- ⑦ 中間試験：課題曲の演奏を行います。

中間試験評価方法・評価基準

課題曲の譜面を読み、演奏します。授業で学んだスケールを活用できているか、また1曲を通しての演奏力を評価します。

出席：25% 平常点：25% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 12キーのメジャースケールを学びます。

- ⑨ ダイアトニックのアルペジオを学びます。
- ⑩ コードの5つの基本フォームを覚え、スケールとの関係を理解します。
- ⑪ コードのポジションを考え、楽曲を演奏します。
- ⑫ 様々な楽曲のイントロをアナライズし、演奏します。
- ⑬ 様々な楽曲のコンピングをアナライズし、演奏します。
- ⑭ 様々な楽曲のソロをアナライズし、演奏します。
- ⑮ 期末試験：課題曲の演奏を行います。

期末試験評価方法・評価基準

課題曲の譜面を読み、演奏します。授業で学んだスケールを活用できているか、また1曲を通しての演奏力を評価します。

出席：25% 平常点：25% 試験：50%

特記事項

授業では、ミキサーを介して自分の音を聞くことがありますのでヘッドフォンを用意してください（イヤホンと変換プラグでも可）

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロビゼーションⅡ
担当講師名	高山毅
学期	秋学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ベース専攻

担当科目に関する実務経験

ジャズ的な演奏の中でのインプロビゼーションや作編曲、コードアレンジをしています。

授業内容

ベースライン作りから作曲アレンジ、ベースでのアドリブやフィルイン等に必要な音楽理論を楽器を弾きつつ学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なジャンル、様々なリズムとスタイル、様々なコード進行の音楽に対応できるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①3コードのブルースの進行と演奏
- ②同じコードが連続する進行と演奏（セブンスコード）
- ③同じコードが連続する進行と演奏（マイナーセブンスコード）
- ④コードプログレッション（メジャーキー）
- ⑤コードプログレッション（マイナーキー）
- ⑥ジャズブルースの進行と演奏
- ⑦以上の内容のまとめ（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ジャズの楽曲の演奏（メジャーキー）

- ⑨ジャズの楽曲の演奏（マイナーキー）
- ⑩ジャズの楽曲の演奏（モード）
- ⑪ロックスタイルの楽曲の演奏
- ⑫ファンク、R&Bスタイルの楽曲の演奏
- ⑬ラテンスタイルの楽曲の演奏
- ⑭バラードの楽曲の演奏
- ⑮以上の内容のまとめ（テスト）

期末試験評価方法・評価基準

出席と平常点を重視します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロヴィゼーション II
担当講師名	山村牧人
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム専攻

担当科目に関する実務経歴

1982年より演奏活動開始。今日に至るまで自主企画ライブ、アーティスト・サポート、レコーディング、楽器制作、演奏データ制作、リズムアレンジの書籍出版等の演奏及び関連制作業務。並行して1990年以降、楽器店でのドラムレッスンや講師の委託を受け、92年からドラム専門誌へのセミナー記事連載を開始し、20年以上の連載と自著ドラム教則本の出版多数。本校では93年からDTMの講師として、プロミュージシャン学科発足からドラム講師として勤務。

授業内容

基本的なパターン奏法の習得を前提に「叩くことから奏でること」へ、グルーヴと称されるビート表現と奏法の関連性をつかみながら、音楽的な表現へ向けて奏法の演習を重ねます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ドラムセットの奏法の歴史と変遷を理解し、古いものから新しいものまで、主体的に奏法を選択することを目的とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①グリップ強化 / スピード、パワー・アップを目指したより高度なグリップの考え方とエクササイズ
- ②リズム・キープとクリック / ストロークの安定などドラミングの動作とテンポ・キープの考察とエクササイズ演習
- ③ダイナミクス表現 / フィンガーコントロールからボディ・ショットなど、ダイナミクス表現のためのスティック&ペダルワーク
- ④チューニングとセッティング / チューニングの方法論、目的、プロ・ドラマーのサウンドに対する考え方の理解。ドラムセッティングのセオリーと実践
- ⑤バックビート・スタイルの種類 / ロック・ドラミングの基本となるバックビート・スタイルの種類と展開演習
- ⑥ファンク・スタイルと16thバスドラム音型 / 16th feelの意味とファンクスタイル、バスドラムのバリエーションとスリップ・ビートの演習

⑦クオーター試験：リズムパターンの展開 ／ 複数のスタイルをつなげて展開させる実技演奏

中間試験評価方法・評価基準

授業での平常点を主として、試験演奏に現れる習得度や練習の達成度を加えて評価します。
試験点：30% ／ 平常点：50% ／ 出席点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧メトリカル・アッヂェランド ／ 全音符～32分音符までのチェンジアップとストローク使い分けと、テンポ・コントロール
- ⑨コンビネーション・テクニック（1） ／ 高度なコンビネーション・ワークの準備としての、エレメンタリーな身体的トレーニング
- ⑩コンビネーション・テクニック（2） ／ バスドラムによるオステイナート奏法と、アクセント移動によるインプロヴィゼイズ展開
- ⑪コンビネーション・テクニック（3） ／ ハイハット＆ライド・バリエーションとレガート系フレーズを使ったコンビネーション演習
- ⑫ドラム・アンサンブル ／ ドラムセット2台以上を使用したドラム・アンサンブル演習
- ⑬ベーシック・ポリリズム ／ ハーフ&ダブルタイムから複合拍子までの紹介と演習
- ⑭ドラム・パート演習 ／ 本学期に演習した奏法を盛り込んだドラム・パート譜に基づいた実技演奏の準備
- ⑮クオーター試験：パート譜演奏 ／ ドラム・パート譜を用いた定型演奏とアドリブ・パートを行います。受講人数に応じてアンサンブル演奏とする場合もあります

期末試験評価方法・評価基準

ポピュラー・ミュージックで一般的、常識的に求められる奏法の理解と習得度により評価します。

試験点：30% ／ 平常点：50% ／ 出席点：20%

特記事項

※学生の習熟度によって内容や方法論は適宜変更調整していきますが、基本となる目標は変わりません。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	インプロヴィゼーションⅡ (Gt)
担当講師名	井上善彬
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター専攻

担当科目に関する実務経歴

講師はサポートギタリストとしても活動。広くロックやジャズ、ワールドミュージックの伴奏や、その他弦楽器の演奏、作編曲を行う実務経験があります。

授業内容

ギターにおけるスケール全般を扱います。様々な楽曲で使われるスケールを学び、コードとスケールの関係を理解します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

より多くのスケールやコードについて学び、更に理解を深めます。併せて読譜力も養います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ドリアンを理解し、演奏できるようにします。
- ② フリジアンを理解し、演奏できるようにします。
- ③ リディアンを理解し、演奏できるようにします。
- ④ ミクソリディアンを理解し、演奏できるようにします。
- ⑤ エオリアンを理解し、演奏できるようにします。
- ⑥ ロクリアンを理解し、演奏できるようにします。
- ⑦ 中間試験：課題曲の演奏を行います。

中間試験評価方法・評価基準

課題曲の譜面を読み、演奏します。授業で学んだスケールを積極的に活用できているか、また1曲を通しての演奏力を評価します。

出席：25% 平常点：25% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ セカンダリードミナントについて考察します。

- ⑨ ブルースを用い、シャッフルの演奏を習得します。
- ⑩ テンションコードについて学び、スケールとの関係を理解します。
- ⑪ 様々なリズムのコード演奏を習得します。
- ⑫ 正確なピッキングによるクラシカルラインを演奏します。
- ⑬ 歌の伴奏に活用できるアルペジオコンピングを学びます。
- ⑭ フィンガーピッキングによるコンピングを学びます。
- ⑮ 期末試験：課題曲の演奏を行います。

期末試験評価方法・評価基準

課題曲の譜面を読み、演奏します。授業で学んだスケールを積極的に活用できているか、また1曲を通しての演奏力を評価します。

出席：25% 平常点：25% 試験：50%

特記事項

授業では、ミキサーを介して自分の音を聞くことがありますのでヘッドフォンを用意してください（イヤホンと変換プラグでも可）

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リズムセクションワークス I
担当講師名	加藤直紀、寺沢功一、阿久井喜一郎、
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関する実務経歴

講師はプログレッシブ・フェュージョンバンドのメンバーとしてデビュー経験、オリジナルCDアルバム、ライヴDVDのリリース経験あり。バンドのメンバーとして、またセッション、サポート等で活動中。

授業内容

ギター、ベース、ドラムという基本的な構成によるアンサンブルの授業です。1年春学期ではロック系の課題曲を使用し、主に8ビート、シャッフル系のリズムを学びます。また他の楽器とのコミュニケーションを学びながらセッション形式で進めていきます。基本的に1曲を2週にわたってマスターしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基礎的な8ビート、シャッフルのリズムでの演奏技術をマスターすること、またその中でそれぞれの曲に必要なテクニック、アドリブなどもマスターしていくことが主な目標になります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①8ビート1-1：課題曲「Etude in A Minor」でミディアムテンポの重い8ビートの演奏をマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ②8ビート1-1：課題曲「Etude in A Minor」でミディアムテンポの重い8ビートの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ（アドリブ）も取り入れていきます。
- ③8ビート2-1：課題曲「Etude in A7」で速いテンポでの8ビートの演奏をマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ④8ビート2-2：課題曲「Etude in A7」速いテンポでの8ビートの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ（アドリブ）も取り入れていきます。
- ⑤8ビート3-1：課題曲「Armed And Ready」でハードロックの8ビートをマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ⑥8ビート3-2：課題曲「Armed And Ready」でハードロックの8ビートをマスターしていきます。2週目はソロ（アドリブ）も取り入れていきます
- ⑦試験：このクオーターで学んだいづれか1曲の演奏で、該当する曲の課題をマスターし、また雰囲気を表現できたかを確認します。

中間試験評価方法・評価基準

試験 30%、平常点 30%、出席率 40%、出席を重視します。アンサンブルの授業であることや同じ課題を何週かに渡って続けることから、欠席してしまうと他の学生に迷惑がかかります。あとは、積極的な授業態度であること、予習復習をすること、そしてただ上手く演奏すれば良いのではなく自分なりに楽しんで演奏することが大切です。

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧シャッフル 1-1：「Black Night」 or 「Detroit Rock City」で基本的なシャッフルのリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ⑨シャッフル 1-2：「Black Night」 or 「Detroit Rock City」で基本的なシャッフルのリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロも取り入れていきます。
- ⑩シャッフル 2-1：「Higher Ground」 or 「Goodbye Ekenore」でシャッフルのリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ⑪シャッフル 2-2：「Higher Ground」 or 「Goodbye Ekenore」でシャッフルのリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロも取り入れていきます。
- ⑫シャッフル 3-1：「Into The Arena」で 8/12 拍子での演奏をマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ⑬シャッフル 3-2：「Into The Arena」で 8/12 拍子での演奏をマスターしていきます。2週目はソロも取り入れていきます。
- ⑭シャッフル 3-3：「Into The Arena」で 8/12 拍子での演奏をマスターしていきます。3週目は更に完成度を高めています。
- ⑮試験：このクオーターで学んだいすれか 1 曲の演奏で、該当する曲の課題をマスターし、また雰囲気を表現できたかを確認します。

期末試験評価方法・評価基準

試験 30%、平常点 30%、出席率 40%、出席を重視します。アンサンブルの授業であることや同じ課題を何週かに渡って続けることから、欠席してしまうと他の学生に迷惑がかかります。あとは、積極的な授業態度であること、予習復習をすること、そしてただ上手く演奏すれば良いのではなく自分なりに楽しんで演奏することが大切です。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リズムセクションワークスⅠ
担当講師名	稻葉智、石川真幸、川崎真澄
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関する実務経歴

音楽業界にて様々なセッション、レコーディング等を経験、自己のバンドでのメジャーデビューの経験を持ちます。

授業内容

1 クオーターでは 8 ビート、2 クオーターではシャッフルの楽曲をストローク、フレーズ、ソロの観点からベーシックな演奏を学びます。加えてソロに於いてのスケールの選択、フレージング等も学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各リズムの取り方、演奏法を学ぶ事で自身のリズム感、演奏向上をしっかりと習得し、様々なフレーズ、ソロへの対応を身につけます。また、演奏者同士の音以外でのコミュニケーションも取れるようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 8 ビートの課題曲 1、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ② 8 ビートの課題曲 1、①を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ③ 8 ビートの課題曲 2、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ④ 8 ビートの課題曲 2、③を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑤ 8 ビートの課題曲 3、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑥ 8 ビートの課題曲 3、⑤を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑦ 課題曲の中からクオーター末試験をバンド単位で行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%

課題曲をよく理解し、リズム、ソロに於いてしっかりととした演奏が出来ているかを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ シャッフルの課題曲1、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑨ シャッフルの課題曲1、⑧を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑩ シャッフルの課題曲2、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑪ シャッフルの課題曲2、⑩を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑫ シャッフルの課題曲3、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑬ シャッフルの課題曲3、⑫を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑭ 試験に向けての課題曲の練習、演奏中のコミュニケーションの取り方の練習もします。
- ⑮ 課題曲の中からクオーター末試験をバンド単位で行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%

課題曲をよく理解し、リズム、ソロに於いてしっかりととした演奏が出来ているかを評価します。

また、演奏中のダイナミクスやコミュニケーション等についても評価します。

特記事項

バンド単位での授業となるので授業の前にしっかりと自分のパートを予習しすぐに演奏できる状態を作つておいて下さい。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リズムセクションワークスⅡ
担当講師名	加藤直紀、寺沢功一、阿久井喜一郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関する実務経歴

講師はプログレッシブ・フェュージョンバンドのメンバーとしてデビュー経験、オリジナルCDアルバム、ライヴDVDのリリース経験あり。バンドのメンバーとして、またセッション、サポート等で活動中。

授業内容

3クオーターでは16ビート系の練習曲、そして最後のクオーターでは今まで学んだことのまとめ、および変拍子、スリップビート等を使った曲でさらなる演奏力の向上、アンサンブル能力、セッション能力の向上を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基礎的な16ビートから変拍子など、様々なリズムでの演奏技術をマスターすること、またその中でそれぞれの曲に必要なテクニック、アドリブなどもマスターしていくことが主な目標になります。。

授業計画（1回目から7回目）

- ①16ビート1-1：課題曲「Immigrant Song」で重い16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ②16ビート1-2：課題曲「Immigrant Song」で重い16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ（アドリブ）も取り入れていきます。
- ③16ビート2-1：課題曲「Walkin' Naked Thru A Blubell Field」で16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ④16ビート2-2：課題曲「Walkin' Naked Thru A Blubell Field」で16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ（アドリブ）も取り入れていきます。
- ⑤16ビート3-1：課題曲「Girl Goodbye」or「Led Boots」で16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ⑥16ビート3-2：課題曲「Girl Goodbye」or「Led Boots」で16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ（アドリブ）も取り入れていきます。
- ⑦試験：このクオーターで学んだいづれか1曲の演奏で、該当する曲の課題をマスターし、また雰囲気を表現できたかを確認します。

中間試験評価方法・評価基準

試験 30%、平常点 30%、出席率 40%、出席を重視します。アンサンブルの授業であることや同じ課題を何週かに渡って続けることから、欠席してしまうと他の学生に迷惑がかかります。あとは、積極的な授業態度であること、予習復習をすること、そしてただ上手く演奏すれば良いのではなく自分なりに楽しんで演奏することが大切です。

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧まとめ（変拍子）1：「Jake To The Bone」or「Scatterbrain」で変拍子のリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ⑨まとめ（変拍子）2：「Jake To The Bone」or「Scatterbrain」で変拍子のリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ（アドリブ）も取り入れていきます。
- ⑩まとめ（スリップ）1：「Triple Fighter」でスリップビートのあるシャッフルでの演奏をマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ⑪まとめ（スリップ）2：「Triple Fighter」でスリップビートのあるシャッフルでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ（アドリブ）も取り入れていきます。
- ⑫まとめ（速いシャッフルとスリップ）1：「Morse Man」でスリップビートのある速いシャッフルでの演奏をマスターしていきます。1週目はバッキングメインで行います。
- ⑬まとめ（速いシャッフルとスリップ）2：「Morse Man」でスリップビートのある速いシャッフルでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ（アドリブ）も取り入れていきます。
- ⑭まとめ（速いシャッフルとスリップ）3：「Morse Man」でスリップビートのある速いシャッフルでの演奏をマスターしていきます。3週目は更に完成度を高めています。
- ⑮試験：このクオーターで学んだいずれか 1 曲の演奏で、該当する曲の課題をマスターし、また雰囲気を表現できたかを確認します。

期末試験評価方法・評価基準

試験 30%、平常点 30%、出席率 40%、出席を重視します。アンサンブルの授業であることや同じ課題を何週かに渡って続けることから、欠席してしまうと他の学生に迷惑がかかります。あとは、積極的な授業態度であること、予習復習をすること、そしてただ上手く演奏すれば良いのではなく自分なりに楽しんで演奏することが大切です。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リズムセクションワークスⅡ
担当講師名	稻葉智、石川真幸、川崎真澄
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関する実務経歴

音楽業界にて様々なセッション、レコーディング等を経験、自己のバンドでのメジャーデビューの経験を持ちます。

授業内容

3 クオーターでは 16 ビート、4 クオーターでは複合（混合）リズムの楽曲をストローク、フレーズ、ソロの観点からベーシックな演奏を学びます。加えてソロに於いてのスケールの選択、フレージング等も学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各リズムの取り方、演奏法を学ぶ事で自身のリズム感、演奏向上をしっかりと習得し、様々なフレーズ、ソロへの対応を身につけます。また、演奏者同士の音以外でのコミュニケーションも取れるようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 16 ビートの課題曲 1、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ② 16 ビートの課題曲 1、①を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ③ 16 ビートの課題曲 2、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ④ 16 ビートの課題曲 2、③を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑤ 16 ビートの課題曲 3、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑥ 16 ビートの課題曲 3、⑤を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑦ 課題曲の中からクオーター末試験をバンド単位で行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%

課題曲をよく理解し、リズム、ソロに於いてしっかりととした演奏が出来ているかを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 複合（混合）リズムの課題曲1、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑨ 複合（混合）リズムの課題曲1、⑧を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑩ 複合（混合）リズムの課題曲2、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑪ 複合（混合）リズムの課題曲2、⑩を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑫ 複合（混合）リズムの課題曲3、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑬ 複合（混合）リズムの課題曲3、⑫を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑭ 試験に向けての課題曲の練習、演奏中のコミュニケーションの取り方の練習もします。
- ⑮ 課題曲の中からクオーター末試験をバンド単位で行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%

課題曲をよく理解し、リズム、ソロに於いてしっかりと演奏が出来ているかを評価します。

また、演奏中のダイナミクスやコミュニケーション等についても評価します。

特記事項

バンド単位での授業となるので授業の前にしっかりと自分のパートを予習しすぐに演奏できる状態を作つておいて下さい。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ベーシックテクニック I
担当講師名	宇田隆志
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

プロミュージシャン（キーボード全般、アコーディオン、SAX プレイヤーとして）、また作編曲家としてレコーディング、ライブ活動を約 20 年に渡って行っております。

授業内容

様々なジャンルの楽曲に対して、個性を生かす演奏家になる為の演奏技術を習得、またシンセサイザー等デジタル楽器の操作法の習得を学習する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

将来的に需要度の高い演奏家を目指せる様に、様々なジャンルにおける演奏アプローチを得て、現場感覚を養う。

授業計画（1回目から7回目）

- ①NORD LEAD 等アナログシンセサイザーを使用し、基本的な音作りの学習。オシレーターの各波形の説明とエンヴェロープの説明と理解。
- ②各ピアノ音色（Acoustic PF、Electric PF、FM 系 Digital PF）の説明と演奏法の習得。
- ③ORGAN のドローバー設定と Leslie Speaker の説明と演奏法の習得。
- ④SYNTH LEAD、SYNTH BRASS、SYNTH PAD 等を使用する楽曲の演奏法の習得。
- ⑤CLAVI、WURLY 等リリースの短い音色を使用する楽曲の演奏法の習得。
- ⑥KEY=F で”Now’s the time”をモチーフに PF と ORGAN によるコードバックキング中心のリズムトレーニング。
- ⑦クオーター未試験。KEY=F で”Now’s the time”をモチーフに PF と ORGAN によるコードバックキング中心演奏。

中間試験評価方法・評価基準

実技 50% 平常点 25% 出席点 25%
主に演奏スキルを採点の重きに置くものとする。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧テンションコード、代理コード、裏コードの説明と学習。
- ⑨Key=C”Route66”をモチーフにテンションコード、代理コード、裏コードを使用するコードアレンジ。
- ⑩スケール練習 Blue Note Scale。
- ⑪スケール練習 Mixolydian Scale。
- ⑫スケール練習 Pentatonic Scale と Alterd Scale。
- ⑬上記スケールを使用して、”Sweet home chicago” KEY=Eをモチーフにして SOLO 練習。
- ⑭”Sweet home chicago” KEY=Eをモチーフにして SOLO と Backing の練習。
- ⑮クオーター未試験。”Sweet home chicago” KEY=Eをモチーフにして SOLO と Backing の発表。

期末試験評価方法・評価基準

実技 50% 平常点 25% 出席点 25%
主に演奏スキルを採点の重きに置くものとする。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ベーシックテクニックⅡ
担当講師名	宇田隆志
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	キーボード専攻

担当科目に関する実務経歴

プロミュージシャン（キーボード全般、アコーディオン、SAX プレイヤーとして）、また作編曲家としてレコーディング、ライブ活動を約 20 年に渡って行っております。

授業内容

様々なジャンルの楽曲に対して、個性を生かす演奏家になる為の演奏技術を習得、またシンセサイザー等デジタル楽器の操作法の習得を学習する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

将来的に需要度の高い演奏家を目指せる様に、様々なジャンルにおける演奏アプローチを得て、現場感覚を養う。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Aletha frankrin "Love the one your with" をモチーフに Organ, EP を使用する Funk 系演奏法の習得。
- ②Aletha frankrin "Love the one your with" をモチーフに SOLO 練習。
- ③YMO "東風" をモチーフに SYNTH LEAD、SYNTH BRASS 等バックキングパターンの演奏法の習得。DAW を使用しリズムトラックの製作。
- ④YMO "東風" をモチーフに SYNTH BRASS 等バックキングパターンの演奏法の習得。DAW で製作したトラックを使用し、SYNTH によるアプローチの習得。
- ⑤YMO "東風" をモチーフに DAW で製作したトラックを使用し、SYNTH LEAD と SOLO の練習。
- ⑥YMO "東風" をモチーフに受講生内でテーマ、バックキングのパート分を行いキーボードだけのアンサンブル練習。DAW を使用するものとする。
- ⑦クオーター末試験。上記楽曲のキーボードアンサンブルによる演奏発表。DAW を使用するものとする。

中間試験評価方法・評価基準

実技 50% 平常点 25% 出席点 25%
主に演奏スキルを採点の重きに置くものとする。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Randy Crawford”Street life”をモチーフに、楽曲内でテンション、代理、裏コードを使用する演奏法の取得。
- ⑨Randy Crawford”Street life”をモチーフに、SOLO練習。
- ⑩Vangelis”Chariots of Fire”をモチーフにDAWを使用してリズムトラックの製作。
- ⑪Vangelis”Chariots of Fire”をモチーフにDAWを使用してシンセバッキングの制作（音作りも含める）。
- ⑫Vangelis”Chariots of Fire”をモチーフにDAWを使用してシンセテーマの制作（音作りも含める）。
- ⑬弾き語りのPiano演奏法の習得。（同級生のシンガーソングライターの生徒に参加して頂き、オリジナル楽曲の演奏だと好ましい）。
- ⑭弾き語りのPiano演奏法の習得。（同級生のシンガーソングライターの生徒に参加して頂き、オリジナル楽曲の演奏だと好ましい）。コードアレンジや演奏法の見直し。
- ⑮クオーター末試験。上記シンガーソングライター生徒の楽曲演奏。

期末試験評価方法・評価基準

実技 50% 平常点 25% 出席点 25%
主に演奏スキルを採点の重きに置くものとする。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リズムセクションワークスⅠ
担当講師名	稻葉智、石川真幸、川崎真澄
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関する実務経歴

音楽業界にて様々なセッション、レコーディング等を経験、自己のバンドでのメジャーデビューの経験を持ちます。

授業内容

1 クオーターでは 8 ビート、2 クオーターではシャッフルの楽曲をストローク、フレーズ、ソロの観点からベーシックな演奏を学びます。加えてソロに於いてのスケールの選択、フレージング等も学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各リズムの取り方、演奏法を学ぶ事で自身のリズム感、演奏向上をしっかりと習得し、様々なフレーズ、ソロへの対応を身につけます。また、演奏者同士の音以外でのコミュニケーションも取れるようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 8 ビートの課題曲 1、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ② 8 ビートの課題曲 1、①を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ③ 8 ビートの課題曲 2、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ④ 8 ビートの課題曲 2、③を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑤ 8 ビートの課題曲 3、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑥ 8 ビートの課題曲 3、⑤を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑦ 課題曲の中からクオーター末試験をバンド単位で行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%

課題曲をよく理解し、リズム、ソロに於いてしっかりととした演奏が出来ているかを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ シャッフルの課題曲1、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑨ シャッフルの課題曲1、⑧を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑩ シャッフルの課題曲2、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑪ シャッフルの課題曲2、⑩を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑫ シャッフルの課題曲3、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑬ シャッフルの課題曲3、⑫を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑭ 試験に向けての課題曲の練習、演奏中のコミュニケーションの取り方の練習もします。
- ⑮ 課題曲の中からクオーター末試験をバンド単位で行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%

課題曲をよく理解し、リズム、ソロに於いてしっかりととした演奏が出来ているかを評価します。

また、演奏中のダイナミクスやコミュニケーション等についても評価します。

特記事項

バンド単位での授業となるので授業の前にしっかりと自分のパートを予習しすぐに演奏できる状態を作つておいて下さい。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リズムセクションワークスⅡ
担当講師名	稻葉智、石川真幸、川崎真澄
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター、ベース、ドラム、キーボード専攻

担当科目に関する実務経歴

音楽業界にて様々なセッション、レコーディング等を経験、自己のバンドでのメジャーデビューの経験を持ちます。

授業内容

3 クオーターでは 16 ビート、4 クオーターでは複合（混合）リズムの楽曲をストローク、フレーズ、ソロの観点からベーシックな演奏を学びます。加えてソロに於いてのスケールの選択、フレージング等も学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各リズムの取り方、演奏法を学ぶ事で自身のリズム感、演奏向上をしっかりと習得し、様々なフレーズ、ソロへの対応を身につけます。また、演奏者同士の音以外でのコミュニケーションも取れるようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 16 ビートの課題曲 1、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ② 16 ビートの課題曲 1、①を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ③ 16 ビートの課題曲 2、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ④ 16 ビートの課題曲 2、③を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑤ 16 ビートの課題曲 3、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑥ 16 ビートの課題曲 3、⑤を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑦ 課題曲の中からクオーター末試験をバンド単位で行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%

課題曲をよく理解し、リズム、ソロに於いてしっかりととした演奏が出来ているかを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 複合（混合）リズムの課題曲1、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑨ 複合（混合）リズムの課題曲1、⑧を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑩ 複合（混合）リズムの課題曲2、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑪ 複合（混合）リズムの課題曲2、⑩を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑫ 複合（混合）リズムの課題曲3、基本的な演奏手法を確認、習得します。
- ⑬ 複合（混合）リズムの課題曲3、⑫を基に更に深い演奏、ソロパート等の演奏を習得します。
- ⑭ 試験に向けての課題曲の練習、演奏中のコミュニケーションの取り方の練習もします。
- ⑮ 課題曲の中からクオーター末試験をバンド単位で行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験 50%、平常点 30%、出席点 20%

課題曲をよく理解し、リズム、ソロに於いてしっかりと演奏が出来ているかを評価します。

また、演奏中のダイナミクスやコミュニケーション等についても評価します。

特記事項

バンド単位での授業となるので授業の前にしっかりと自分のパートを予習しすぐに演奏できる状態を作つておいて下さい。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	マニピュレートゼミ I
担当講師名	miifuu
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	キーボード専攻

担当科目に関する実務経歴

バンドのキーボード担当を経て、サポートミュージシャンとしてソロ、バンド、アイドルのバックバンドを務める。数々の女性アイドル楽曲をサウンドプロデュースし、自分でアレンジも手掛ける。

授業内容

ライブパフォーマンスの中でキーボーディストがいかにマニピュレーターという仕事をしていくか、その方法論を様々な角度から分析解説していく。バンド、ユニット、サポートでのバランス感覚、音の選び方、アレンジやり方、トラックメイクなど多角的なケースを検証し、ケーススタディを行っていく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

マニピュレーターの基本を学び、音作りや効果的なアレンジの技術を身に付ける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション
- ② 好きなキーボーディストやプレイについて分析する
- ③ 音作りについて 1（オシレーター）
- ④ 音作りについて 2（フィルター）
- ⑤ 自分の使うシンセの説明書を改めて読みこむ
- ⑥ 音楽基礎理論 1（基本コード）
- ⑦ 音楽基礎理論 2（複雑なコード）

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業内での取り組み姿勢

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 音楽基礎理論 3 (コードに対してのアプローチ)
- ⑨ 音楽基礎理論 4 (ボイシング)
- ⑩ コードネームのみの楽譜への理解
- ⑪ バンド内での音色の選び方
- ⑫ バンド内でのプレイのアプローチ
- ⑬ マニピュレーターの役割
- ⑭ DAW について
- ⑮ 確認試験

期末試験評価方法・評価基準

・出席：40% 平常点：30% 試験：30%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	マニピュレートゼミⅡ
担当講師名	miifuu
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	キーボード専攻

担当科目に関する実務経歴

バンドのキーボード担当を経て、サポートミュージシャンとしてソロ、バンド、アイドルのバックバンドを務める。数々の女性アイドル楽曲をサウンドプロデュースし、自分でアレンジも手掛ける。

授業内容

ライブパフォーマンスの中でキーボーディストがいかにマニピュレーターという仕事をしていくか、その方法論を様々な角度から分析解説していく。バンド、ユニット、サポートでのバランス感覚、音の選び方、アレンジやり方、トラックメイクなど多角的なケースを検証し、ケーススタディを行っていく。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

マニピュレーターの基本を学び、音作りや効果的なアレンジの技術を身に付ける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① CUBASE での打ち込み基礎 1 (基本の操作を学ぶ)
- ② CUBASE での打ち込み基礎 2 (既存曲のピアノを打ち込んでみる)
- ③ CUBASE での打ち込み基礎 3 (既存曲のピアノを打ち込んでみる)
- ④ CUBASE での打ち込み基礎 4 (既存曲のストリングスを打ち込んでみる)
- ⑤ CUBASE での打ち込み基礎 5 (既存曲のストリングスを打ち込んでみる)
- ⑥ CUBASE での打ち込み応用 1 (オリジナル曲のストリングスを打ち込んでみる)
- ⑦ CUBASE での打ち込み応用 2 (オリジナル曲のストリングスを打ち込んでみる)

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業内での取り組み姿勢

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ CUBASE での打ち込み応用 3 (楽曲をいかに華やかに聞かせるか)
- ⑨ CUBASE での打ち込み応用 4 (楽曲をいかに華やかに聞かせるか)
- ⑩ ライブの中でのプレイ基礎
- ⑪ ライブの中でのプレイ応用
- ⑫ ライブ用のデータを作る
- ⑬ ライブ用のデータを作る
- ⑭ ライブ用のデータを作る
- ⑮ 確認試験

期末試験評価方法・評価基準

・出席：40% 平常点：30% 試験：30%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	アレンジ作曲技法 I
担当講師名	芦澤和則
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻、キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽、CM、TV 業界において楽曲提供、サウンドプロデュースの経験を持ちます。

授業内容

初步からの作曲法～自身のオリジナル楽曲のアレンジメント、オケ制作に到るまでを見据え進めて行きます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自身のオリジナル楽曲のオケ制作を目指します

授業計画（1回目から7回目）

- ①作曲法#1（成り立ち、仕組み）
- ②作曲法#2（サビと平歌）
- ③作曲法#3（プロ楽曲研究）
- ④作曲法#4（シングル曲とは）
- ⑤作曲法#5（指定のコード進行でサビを作る）
- ⑥作曲法#6（前回曲に作詞）
- ⑦試験（楽曲を発表します）

中間試験評価方法・評価基準

提出楽曲のクオリティ、出席率、理解力等を総合的に評価します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧作曲法#7（1Q で作った曲をフルサイズに完成）
- ⑨アレンジ法#8（完成曲のコードアレンジ）
- ⑩アレンジ法#9（コード理論）
- ⑪アレンジ法#10（スケール、キーについて）

- ⑫アレンジ法#11（ダイアトニックについて）
- ⑬アレンジ法#12（コードのリアレンジ）
- ⑭アレンジ法#13（歌詞内容との整合性）
- ⑮試験（楽曲を発表します）

期末試験評価方法・評価基準

提出楽曲のクオリティ、出席率、理解力等を総合的に評価します

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	アレンジ作曲技法Ⅱ
担当講師名	芦澤和則
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	シンガーソングライター専攻、キーボード専攻

担当科目に関連する実務経歴

講師は音楽、CM、TV 業界において楽曲提供、サウンドプロデュースの経験を持ちます。

授業内容

初步からの作曲法～自身のオリジナル楽曲のアレンジメント、オケ制作に到るまでを見据え進めて行きます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自身のオリジナル楽曲のオケ制作を目指します

授業計画（1回目から7回目）

- ①作詞法#1 (lyric と poem の違いとは)
- ②作詞法#2 (サビと平歌)
- ③作詞法#3 (プロ楽曲研究)
- ④作詞法#4 (シングル曲とは)
- ⑤作詞法#5 (指定のワードを入れてサビを作る)
- ⑥作詞法#6 (前回曲に作曲)
- ⑦試験 (楽曲を発表します)

中間試験評価方法・評価基準

提出楽曲のクオリティ、出席率、理解力等を総合的に評価します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧アレンジ法#14 (打込みとは)
- ⑨アレンジ法#15 (ベースの打込みテクニック～基本ルート音刻み)
- ⑩アレンジ法#16 (ベースの打込みテクニック～フレーズを混ぜる)
- ⑪アレンジ法#17 (ドラムの打込みテクニック～基本パターン)

- ⑫アレンジ法#18（ドラムの打込みテクニック～フィルイン）
- ⑬アレンジ法#19（シンセ系の打ち込みテクニック）
- ⑭アレンジ法#20（ストリングス系の打ち込みテクニック）
- ⑮試験（楽曲を発表します）

期末試験評価方法・評価基準

提出楽曲のクオリティ、出席率、理解力等を総合的に評価します

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	スコアトレーニング I
担当講師名	松永加津子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スクールジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

音楽の基礎知識を学びます。簡単な楽典、新曲視唱、聴音を学習していきます。譜面が読めて、理解し、書けるようになるための授業です。しっかりと学習してほしい、大切なクラスです。コツコツ勉強して、実力を高めてください。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音の読み方、譜面を書くために必要な記号、音符の長さ、曲の進行に関する記号など、基礎の基礎からスタートします。わかっているつもりにならず、初步から確認しながらおじいています。2度、3度の音程の新曲視唱、同じく聴音も2度3度の音程から学習し、慣れていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音部記号、五線、小節線、音の読み方、記号、音符の長さ、拍子、音符の高さなど、基礎の基礎からスタートします。
- ②前回の復習+曲の進行を表す記号、音楽表記の記号など、譜面を読む、理解する、書くのに必要な記号を学びます。
- ③毎回、簡単な楽典プリントを勉強します。少しづつ知識を増やし、譜面の理解力をつけましょう。
- ④新曲視唱は何キーの曲か、主要3和音を考えてから歌っていきます。はじめは2度3度の音程の短い曲からスタートです。
- ⑤聴音は、新曲視唱と並行して、同じ2度3度の音程の、2小節の短い聴音からスタートします。
- ⑥毎回、楽典、新曲視唱、聴音を学習します。少しづつ高度になっていきますが、しっかり学習しましょう。
- ⑦一人ずつ新曲視唱、全体で短い聴音（2～4小節）をします。

中間試験評価方法・評価基準

新曲視唱は、大きな声ではっきり歌えるかをチェックします。自信がなければ、ゆっくり歌っても大丈夫です。聴音は、短い小節をしっかり聞いて、分かるまでチャレンジしてもオッケー、やり方を覚えてください。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧4度5度音程の新曲視唱、聴音は8ビートのリズムに合わせて聴き取るイヤートレーニングになります。
- ⑨4度5度音程の新曲視唱、8ビートのイヤートレーニング、まずはリズム聴音からです。
- ⑩新曲視唱は、グループに分かれて、伴奏したりハーモニーを工夫したりして発表する形で歌います。
- ⑪新曲視唱、毎回違うメンバーで相談して発表していきます。聴音は16ビートのリズムに合わせて聴き取るイヤートレーニング。
- ⑫新曲視唱は、グループで工夫して発表していきます。16ビートのイヤートレーニングは、リズム聴音から。
- ⑬新曲視唱、グループで練習していく事に慣れ、ハーモニーを楽しんでください。イヤートレーニングは、8、16両ビートで。
- ⑭新曲視唱のグループ発表形式は今回でおしまい。楽しく歌ってください。聴音もリズム聴音に慣れていきましょう。
- ⑮一人ずつ新曲視唱、全体で短い聴音（4～6小節）をします。

期末試験評価方法・評価基準

新曲視唱の前に、歌う曲のキーと主要3和音を言えるようにしましょう。聴音は、まずリズム聴音をしっかり出来るようになるといいですね。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

プリントをたくさん配りますので、この授業用のファイルを用意してください。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	スコアトレーニング I
担当講師名	吉岡靖高
学期	春学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は数多くのアーティストとの共演、サポート、自身のリーダーアルバムなど音楽業界での実務経験を持ちます。

授業内容

演奏、作曲、アレンジするために必要な基礎知識を学習します。聴音で聞く力を付けて行きます。音符はミュージシャンの文字です。譜面は文章のようなものです。このような知識はプロとしては持っていないくてはならないものです。しっかりと身に付けましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思い浮かんだメロディーやリズムを譜面に書けるようになる。それを人に伝えられるようになる。譜面を読んでそこから音楽を感じられるようになることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音符、五線譜、クレフ、音名などの基礎知識を学習します。
- ②リピート記号：様々なリピート記号を学んで、曲の進行を追えるようにします。
- ③音価：様々な種類の音符の長さについて学習します。
- ④拍子：拍子とは何かを学びます。
- ⑤調号：調号について学習します。
- ⑥復習：このクオーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑦クオーター末試験：筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

クオーター末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧移調：曲を異なるキーに移調する方法を学びます。
- ⑨4/4: 4/4 拍子について、音符の書き方を学び、リズムの聴音をします。
- ⑩Syncopation(1): 4/4において、8 分音符を使ったシンコペーションリズムについて学びます。リズムの書き方を学びます。リズムの聴音をします。
- ⑪Syncopation(2): 4/4において、8 分音符を使ったシンコペーションリズムの聴音をします。メジャースケール音の聴音もします。
- ⑫Syncopation(3): 4/4において、8 分音符を使ったシンコペーションリズムの聴音をします。メジャースケール音の聴音もします。
- ⑬Syncopation(4): 4/4において、8 分音符を使ったシンコペーションリズムの聴音をします。メジャースケール音の聴音もします。
- ⑭復習：このクオーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑮期末試験：筆記試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	スコアトレーニングⅡ
担当講師名	松永加津子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スクールジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

秋学期は、譜面を読み、譜面を理解し、そして、譜面を書いていくスキルをアップさせていきます。4/4 拍子の譜面の書き方、4/3 拍子、8/6 拍子はどう書くか、読みやすい譜面を作る勉強していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

①オクターブまでの音程を歌ったり聴き取ったりします。新曲視唱では、クリスマスソングやラテンップスにもチャレンジします。また、手拍子付き視唱も学習します。聴音では、シャッフルや16バウンスのビートの書き方なども学びます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①5度6度の新曲視唱、聴音は読みやすい4/4拍子の書き方で聴き取っていきます。
- ②5度6度新曲視唱、4/3拍子と8/6拍子の聴音、書き方やリズムの取り方を考えましょう。
- ③シャッフルのイヤートレーニング、まずリズム聴音でビート感に慣れ、シャッフルの表記の仕方も気をつけます。
- ④7度1オクターブまでの音程の新曲視唱、シャツのリズムイヤートレーニングは名曲のフレーズを参考に学習します。
- ⑤16バウンスのイヤートレーニング、リズム聴音から始めて、16バウンスの表記も気をつけます。
- ⑥1オクターブまでの音程の新曲視唱、16バウンスのリズムイヤートレーニングは名曲のフレーズを参考に学習します。
- ⑦新曲視唱は一人ずつ、聴音は全体で聴き取り試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

新曲視唱は、音程がしっかりとしているかをチェックしますが、大きい声で元気に歌うようにしてください。キーと主要 3 和音をしっかりと答えられるように。聴音で聴き取ったフレーズを、移調したり、1 オクターブ下げたりします。これまで学習してきた楽典の成果を見せてください。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧新曲視唱はクリスマスソング、2 声でハモってみましょう。聴音もゴスペル風なリズム聴音にチャレンジ。
- ⑨1 オクターブまでの音程の新曲視唱、聴音も 8 小節の聴き取り方を練習していきます。
- ⑩新曲視唱は、これまでの旋律だけの齊唱に加えて、手拍子付き聴音にチャレンジしていきます。
- ⑪1 オクターブまでの音程の新曲視唱、手拍子付き視唱、和音の聴音が新しい課題として入ってきます。
- ⑫1 オクターブまでの音程の新曲視唱、手拍子付き聴音、和音の聴音など。
- ⑬書くためのスキルアップとして、各拍子の書き方をもう一度復習して確認します。
- ⑭様々なラテンポップスや、民謡などを、楽しんで視唱していきます。
- ⑮

期末試験評価方法・評価基準

まず、譜面が読めること、理解すること。新曲視唱は一人ずつ行います。キーと主要 3 和音、しっかりと答えましょう。その後全体で聴音。移調やオクターブの上げ下げ、身について欲しいスキルです。

特記事項

1 年間で音楽の基礎知識を学びました。これを活かして、楽しみながら、たくさん演奏したり歌ったり曲を作ったりしてください。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	スコアトレーニング II
担当講師名	吉岡靖高
学期	秋学期
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は数多くのアーティストとの共演、サポート、自身のリーダーアルバムなど音楽業界での実務経験を持ちます。

授業内容

演奏、作曲、アレンジするために必要な基礎知識を学習します。聴音で聴く力を行きます。音符はミュージシャンの文字です。譜面は文章のようなものです。このような知識はプロとしては持っていないくてはならないものです。しっかりと身に付けましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思い浮かんだメロディーやリズムを譜面に書けるようになる。それを人に伝えられるようになる。譜面を読んでそこから音楽を感じられるようになることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①16ビート(1): 16音符の書き方を学びます。8ビートとの違いを学びます。
- ②16ビート(2): 4/4での16th beatのリズムを聴音します。正しく表記できるように学びます。マイナースケールの音を聴音します。
- ③16ビート(3): 4/4でのシンコペーションしている16th beatのリズムを聴音します。正しく表記できるように学びます。マイナースケールの音を聴音します。
- ④16ビート(4): 4/4でのシンコペーションしている16th beatのリズムを聴音します。正しく表記できるように学びます。マイナースケールの音を聴音します。
- ⑤3/4: 3/4拍子について、音符の書き方を学び、リズムの聴音をします。
- ⑥復習: このクオーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑦クオーター末試験: 筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

クオーター末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧6/8: 6/8 拍子について、3/4との違いや音符の書き方を学び、リズムの聴音をします。ドミナント7の音を聴音します。
- ⑨9/8: 9/8 拍子について、3/4との違いや音符の書き方を学び、リズムの聴音をします。ドミナント7の音を含むメロディーを聴音します。
- ⑩12/8: 12/8 拍子について、4/4との違いや音符の書き方を学び、リズムの聴音をします。トライアドを聴音します。
- ⑪コピー(1): いろいろなリズムや拍子のメロディーを聴き取り、それを譜面に書く練習をします。7thコードを聴音します。
- ⑫コピー(2): いろいろなリズムや拍子のメロディーを聴き取り、それを譜面に書く練習をします。テンションコードを聴音します。
- ⑬コピー(1): いろいろなリズムや拍子のメロディーとコードを聴き取り、それを譜面に書く練習をします。
- ⑭復習: このクオーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑮期末試験: 筆記試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席20%を総合して評価します。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽理論 I
担当講師名	吉岡靖高
学期	春学期
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は数多くのアーティストとの共演、サポート、自身のリーダーアルバムなど音楽業界での実務経験を持ちます。

授業内容

演奏、作曲、アレンジをするために必要な知識や理論を学習し、音楽を自分なりに捉えて、自分を表現することができるようになる為の基礎力を養います。このような知識はプロとしては持っていないくてはならないものです。1年次では音楽の基礎知識を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学習したことを実際の楽曲に、歌手としてまたはコンポーザー、アレンジャーとして使えるようになることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音符、五線譜、クレフ、音名などの基礎知識を学習します。
- ②音程(1)：音程とは何か？音程の数え方について学習します。
- ③音程(2)：2度音程について学習します。
- ④音程(3)：3度音程について学習します。
- ⑤音程(4)：4度音程について学習します。
- ⑥復習：このクオーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑦クオーター末試験：筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

クオーター末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。授業のノートをしっかりと取ることが大切です。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音程(5)：5度音程について学習します。
- ⑨音程(6)：6度音程について学習します。
- ⑩音程(7)：7度音程について学習します。
- ⑪音程(8)：8度以上の音程について学習します。
- ⑫コード(1)：トライアドのことを学習します。
- ⑬コード(2)：7thコードのことを学習します。
- ⑭復習：このクオーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑮期末試験：筆記試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。
授業のノートをしっかりと取ることが大切です。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音楽理論 II
担当講師名	吉岡靖高
学期	秋学期
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は数多くのアーティストとの共演、サポート、自身のリーダーアルバムなど音楽業界での実務経験を持ちます。

授業内容

演奏、作曲、アレンジをするために必要な知識や理論を学習し、音楽を自分なりに捉えて、自分を表現することができるようになる為の基礎力を養います。このような知識はプロとしては持っていないくてはならないものです。1年次では音楽の基礎知識を学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学習したことを実際の楽曲に、歌手としてまたはコンポーザー、アレンジャーとして使えるようになることを目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 調号と Key について学習します。
- ② Major scale と Diatonic chord を学習します。
- ③ Natural Minor scale と Diatonic chord を学習します。
- ④ Harmonic Minor scale と Diatonic chord を学習します。
- ⑤ Melodic Minor scale と Diatonic chord を学習します。
- ⑥ 復習：このクオーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑦ クオーター末試験：筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

クオーター末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。授業のノートをしっかりと取ることが大切です。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Tension chordについて学習します。
- ⑨ Chord progression Analysis (1): 楽曲のコード進行をアナライズする方法を学習します。Dominant motionを学びます。
- ⑩ Chord progression Analysis (2): 楽曲のコード進行をアナライズする方法を学習します。II - V、Secondary dominantを学びます。
- ⑪ Chord progression Analysis (3): 楽曲のコード進行をアナライズする方法を学習します。Sub chord、II - bIIを学びます。
- ⑫ Chord progression Analysis (4): 楽曲のコード進行をアナライズする方法を学習します。Modal Interchangeについて学びます。
- ⑬ Available note scaleについて学習します。
- ⑭ 復習: このクオーターの内容の復習と理解の確認をします。
- ⑮ 期末試験: 筆記試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

期末試験（筆記）60%、平常点（受講態度等）20%、出席 20%を総合して評価します。
授業のノートをしっかりと取ることが大切です。

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	動画作品制作 A I
担当講師名	川久保 裕生
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は映像監督ほかに、YouTuber、音楽活動、DJ の経験があります。

授業内容

動画制作の基本を身につける。自己のセールスポイントを発見する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

動画を活用してセルフプロモーションができ、ビジネスに繋げていける様になれる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① はじめに：自己紹介。授業の趣旨や流れ、評価方法の説明。ディスカッション。
- ② 動画とは？：動画制作に必要な基礎知識。簡単なパソコンの基本知識。
- ③ 動画の種類：動画にはどんな種類があるか？
- ④ 映像制作をするにあたって：コンプライアンスや著作権について。SNS や YouTube について。
- ⑤ MV や PV について：どんなものがあるのか？監督目線で意識してみる。そのディスカッション。
- ⑥ テクニックや機材について：クロマキー撮影やドリーズーム撮影、ジンバルを使った撮影などを実際に体感してもらう。
- ⑦ 中間テスト：筆記試験とレポート 1 クオーターのまとめ

中間試験評価方法・評価基準

- 1：筆記試験とレポートの提出
 - 2：1 クオーターのまとめ
- 出席：40% 平常時：30% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 動画を撮影する：スマートフォンで撮影し動画編集ツール(AdobePremiere)でオリジナ

ル動画を作成する。

- ⑨ 動画フォーマットを理解する：撮影サイズ、記録サイズ、動画フォーマット、動画形式を理解する。
- ⑩ 動画の取り込みと編集：動画の取り込み、保存、ファイルデータ、動画ソフトのインターフェースを理解する書き出しを理解する。
- ⑪ 動画の取り込みと編集：動画ソフトのインターフェースを理解する。エフェクトやトランジション、テロップの入れ方、BGM や NA や SE の取り込み方法。
- ⑫ 作品の構成：動画の企画。絵コンテや撮影方法、考えをイメージにできるだけ近く映像化してみる。
- ⑬ 1 分のオリジナル動画制作：個別指導 1
- ⑭ 1 分のオリジナル動画制作：個別指導 2
- ⑮ 1 分のオリジナル動画制作。動画提出：個別指導 3、2 クオーターのまとめ。

期末試験評価方法・評価基準

1：課題動画の提出

2：2 クオーターのまとめ

出席：40% 平常時：20% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	動画作品制作 A II
担当講師名	川久保 裕生
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は映像監督のほかに、YouTuber、音楽活動、DJ の経験があります。

授業内容

動画制作の基本を身につける。自己のセールスポイントを発見する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

動画を活用してセルフプロモーションができ、ビジネスに繋げていける様になれる。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 提出動画視聴：全員で提出動画を視聴し、レビューする。
- ② 動画配信 1 : YouTube に提出動画をアップロードする。アカウントの作り方や YouTube のユーザーインターフェース（スマートフォン版も含む）を理解する。
- ③ 動画配信 2 : YouTube に提出動画をアップロードする。アカウントの作り方や YouTube のユーザーインターフェース（スマートフォン版も含む）を理解する。
- ④ 理解度テスト：これまで授業で身につけたことの総決算。自らのセールスポイントを発見できているか？
- ⑤ オリジナル動画制作 1(企画・構成)：個別指導 1 (10 分以上のオリジナル動画の制作)
- ⑥ オリジナル動画制作 2(構成)：個別指導 2
- ⑦ オリジナル動画制作 3(撮影)：個別指導 3

中間試験評価方法・評価基準

出席：50% 提出物：30% 積極性：20

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オリジナル動画制作 4(編集・撮影)：個別指導 4
- ⑨ オリジナル動画制作 5(編集)：個別指導 5
- ⑩ オリジナル動画制作 6(編集・書き出し)：個別指導 6

- ⑪ オリジナル動画制作7(動画のアップロード) 個別指導7
- ⑫ 動画発表1：全員で各自が制作した動画の視聴とディスカッション1
- ⑬ 動画発表2：全員で各自が制作した動画の視聴とディスカッション2　まとめ
- ⑭ 1年間のまとめ：動画視聴、映像表現、機材などのディスカッション1
- ⑮ 1年間のまとめ2：動画視聴、映像表現、機材などのディスカッション2

期末試験評価方法・評価基準

出席：50% 提出物：30% 積極性：20

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ジャンル研究 I
担当講師名	轟 光太郎
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

音楽プロダクションにてアーティスト育成の実務経験を持ちます

授業内容

資料映像をオンデマンドで視聴、その後レポート提出～評価を返却します
オンデマンドと対面授業を織り交ぜた授業形態となります

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ロック史に造詣を深め、ミュージシャンとして持つておくべき知識を身に着けます

授業計画（1回目から7回目）

- ① ロック誕生 1 （対面授業）
- ② ロック誕生 2 ~1960 年代~
- ③ ディラン～サイケデリック～ジミヘン～幻想の終わり
- ④ 3 大ギタリスト～ハードロック～プログレッシブロック
- ⑤ ロックスピリットを失った 70 年代
- ⑥ 映画「ノーウェアボーイ」鑑賞
- ⑦ 試験（対面授業）

中間試験評価方法・評価基準

- ・レポート提出
- ・提出状況：50% 提出内容：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ビートルズとはどんなバンドか？（対面授業）
- ⑨ イギリス襲来～ロンドンパンクス殴り込み
- ⑩ アメリカの逆襲～モンスター・ロックバンドの登場
- ⑪ 映画「アンヴィル！」鑑賞

- ⑫ 資料映像「ロック誕生 50 年」のおさらい
- ⑬ 映画「ジャーニー/ドント・ストップ・ビリーヴィン」鑑賞
- ⑭ ギタリストが辿り着くギターの神、ジミ・ヘンドリックス
- ⑮ 試験（対面授業）

期末試験評価方法・評価基準

- ・レポート提出
- ・提出状況：50% 提出内容：50%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	ジャンル研究Ⅱ
担当講師名	轟 光太郎
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

音楽プロダクションにてアーティスト育成の実務経験を持ちます

授業内容

資料映像をオンデマンドで視聴、その後レポート提出～評価を返却します
オンデマンドと対面授業を織り交ぜた授業形態となります

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ロック史に造詣を深め、ミュージシャンとして持つておくべき知識を身に着けます

授業計画（1回目から7回目）

- ① ローリングストーンズとどんなバンドか？（対面授業）
- ② 映画「ブライアン・ジョーンズ～ストーンズから消えた男～」鑑賞
- ③ クロスファイアー・ハリケーン～ストーンズのおさらい～
- ④ 映画「あの頃ペニーレインと」鑑賞
- ⑤ ロック誕生～'70年代のジャパニーズロック～
- ⑥ 映画「ブルース・ブラザース」鑑賞
- ⑦ 試験（対面授業）

中間試験評価方法・評価基準

- ・レポート提出
- ・提出状況：50% 提出内容：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ エリック・クラプトンとはどんなギタリストか？（対面授業）
- ⑨ 「エリック・クラプトン～12小説の人生～」～クラプトンのおさらい
- ⑩ 映画「ブルース・ブラザース 2000」鑑賞
- ⑪ 世界最大の音楽の祭典「グラミー賞」とは？

- ⑫ メタルはなぜ嫌われるのか？～メタルのルーツを探る～
- ⑬ 映画「リトル・ダンサー」鑑賞
- ⑭ '90年代の音楽シーン～グランジ～ブリットポップ
- ⑮ 試験（対面授業）

期末試験評価方法・評価基準

- ・レポート提出
- ・提出状況：50% 提出内容：50%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	オリジナル作品制作 I
担当講師名	松永加津子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

キーボード検査を覚えて、楽しく曲を作っていきます。ドラムやベースをどうやって演奏させていくのか、コードにどうやってメロディーをつけるのか、逆にメロディーにどうやってコードをつけていくのか、少しずつ考えていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思い描く演奏の試作だと思って制作してください。バンドや弾き語りなど、イメージをつかみやすくなりますよ。

授業計画（1回目から7回目）

- ①キーボード操作と周辺機器の使い方を学びます。DTMとも関連していますので、覚えてしまうと、いろんな機材に対応出来るようになります。
- ②Rec操作と再生の仕方。クオントライズをマスターして、完璧な演奏も
- ③ドラムの打ち込み操作。鍵盤入力でカッコいいビートをマスターしましょう。
- ④ベースの入力。どんな音をどんなリズムで打ち込むのか学習しましょう。
- ⑤主要3和音を使って、8ビートの短い曲を作ります。
- ⑥ブルース形式の曲を作ります。コピー操作やトランスポーズに慣れましょう。
- ⑦ブルースの曲を作りましょう。

中間試験評価方法・評価基準

しっかり12小節1コーラスのブルースになってしまえばオッケー。コピーとトランスポーズを使ってもいいし、どんなやり方でもオッケーです。ドラム、ベースの役割をふまえながら、コード楽器のピアノやギターの4リズムが出来ているかをチェックします。

出席：30%、平常点：30%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ドラムトラックのキーボードのアサイン先を確認します。パーカッションを使えるように勉強しましょう。
- ⑨主要3和音を使って8ビートの曲を作ります。パーカッションを入れましょう。
- ⑩自分の好きな2コードを使って16ビートの曲を作ります。パーカッションを入れましょう。
- ⑪I-VI-II-Vの循環コードを使って8ビートで短い曲を作りましょう。
- ⑫II-V-I-VIの循環コードを使って16ビートで短い曲を作りましょう。
- ⑬順次進行を使って曲を作ります。好きなビートでどうぞ。
- ⑭第2クオーターで学習したビートやコードを使って短い曲を作りましょう。
- ⑮指定された条件で短い曲を作ります。

期末試験評価方法・評価基準

ドラムとベースの関係や、コード進行やメロディーをしっかりと把握して、このクオーターで学習した成果が現れた作品かどうかをチェックします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

操作に慣れてしまえば、後は楽しく制作出来るようになりますよ。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	オリジナル作品制作Ⅱ
担当講師名	松永加津子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

キーボード操作を覚えて、様々なビートの曲やコード進行を学びながら、4 リズムの入った曲を作ります。4 リズムの他にも、いろいろな音色を知り、その楽器の特性を活かしたフレーズも考えていきます。最終的には CD に入れるような曲を、時間をかけてじっくり作ります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分のイメージを曲にするために、実験的に打ち込んでみたり、逆に、演奏では出来ないうち込み的な曲を作ることも出来ます。バンド用の曲作りの手がかりになります。いろいろな曲作りを楽しみましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①マイナーの主要 3 和音を使ってシャッフルの曲を作る。
- ②ダイアトニックコード、あるいはセカンドドミナントを使ってバラード曲を作ります。
- ③マイナーのダイアトニックコードを使って 16 バウンスの曲を作りましょう。
- ④5th の音程の変化を使って 8 ビートで曲を作りましょう。
- ⑤クリスマスをイメージした曲を作りましょう。パーカッションを上手に使うと、すごく素敵なクリスマス曲になりますよ。
- ⑥第 3 クオーターでチャレンジしたビートやコードを使って自由に曲を制作します。
- ⑦指定された条件で短い曲を作ります。

中間試験評価方法・評価基準

指定されたコード進行やビートを使って、オリジナリティーのある曲を作ることを目指します。音色をしっかりと選んで、ドラムとベースがしっかりとかみあっているかどうか、確認

しながら作っていきましょう。
出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧第4クオーターは時間をかけて1曲作っていきます。作業に入る前に、どんな曲を作りたいか、イメージしてから作り始めましょう。SAVE&ROADの操作を覚えます。
- ⑨イントロから作ってもサビから作っても大丈夫です。これまでに覚えたエディット操作を使って、作りやすいところから作っていきましょう。
- ⑩こまめにSAVEしながら進めます。UNDO操作も大切です。
- ⑪進行状況やアドバイスのための中間チェックをします。
- ⑫もう一度しっかりと見直し、ぶつかっている音が無いかななど、チェックしましょう。
- ⑬曲の厚みを出すためのパット系の音色を試しましょう。奥行きを出すために、パーカッションも上手に使いましょう。
- ⑭作品制作。
- ⑮みんなでお互いの作品を聴き合いましょう。

期末試験評価方法・評価基準

最後まで諦めずに完成させたかどうか、また、毎回進行状況を書くレポート用紙もチェック対象となります。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

イメージした曲を打ち込んでみる、また、打ち込んで出来た作品から実際の演奏へ落とし込むことが出来るようになると、演奏に、より深みが増してきますよ。

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リペア&クラフト I
担当講師名	轟 光太郎
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はギタークラフトマン、リペアマンとしても実務経験を持ちます。

授業内容

一年を通じて、実際にエレキギターを一本クラフト（製作）、その中でリペア（修理）なども学び、楽器への造詣を深める。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・期間内でのエレキギターの完成
- ・エレキギターの知識取得
- ・楽器業界への興味、進路意識の確認

授業計画（1回目から7回目）

- ① 誕生から現在までのエレキギターの変遷について
- ② アンプ、エフェクターの歴史、使用方法について
- ③ エレキギターの状態確認方法
- ④ エレキギターの基本セッティング
- ⑤ ネックまわりの調整の仕方、反り修正など
- ⑥ ハンダの使い方～ピックアップの交換方法
- ⑦ 試験～1クオーターで学んだ楽器の知識、調整方法のペーパーテスト～

中間試験評価方法・評価基準

- ・好奇心を持って授業を受けているか？
- ・ペーパーテスト
- ・出席：30% 平常点：40% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 1クオーター試験の復習、メンテナンス方法の再確認

- ⑨ エレキギター製作～木地調整～
- ⑩ エレキギター製作～着色①～
- ⑪ エレキギター製作～着色②～
- ⑫ エレキギター製作～オイルフィニッシュ①～
- ⑬ エレキギター製作～オイルフィニッシュ②～
- ⑭ エレキギター製作～ノイズ処理～
- ⑮ 成果物提出（試験）

期末試験評価方法・評価基準

- ・製作途中のエレキギターの作業達成度をチェックします。
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	リペア&クラフトⅡ
担当講師名	轟 光太郎
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はギタークラフトマン、リペアマンとしても実務経験を持ちます。

授業内容

一年を通じて、実際にエレキギターを一本クラフト（製作）、その中でリペア（修理）なども学び、楽器への造詣を深める。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・期間内でのエレキギターの完成
- ・エレキギターの知識取得
- ・楽器業界への興味、進路意識の確認

授業計画（1回目から7回目）

- ① エレキギター製作～電気系統結線～
- ② エレキギター製作～ボディ完成～
- ③ エレキギター製作～フレット擦り合わせ①～
- ④ エレキギター製作～フレット擦り合わせ②～
- ⑤ エレキギター製作～フレット成形①～
- ⑥ エレキギター製作～フレット成形②～
- ⑦ 成果物提出（試験）

中間試験評価方法・評価基準

- ・製作途中のエレキギターの作業達成度をチェックします。
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ エレキギター製作～フレット仕上げ①～

- ⑨ エレキギター製作～フレット仕上げ②～
- ⑩ エレキギター製作～フレット仕上げ③～
- ⑪ エレキギター製作～ネック部パーツ取付～
- ⑫ エレキギター製作～ボディ組込～
- ⑬ エレキギター製作～仕上げ①～
- ⑭ エレキギター製作～仕上げ②～
- ⑮ 成果物提出（試験）

期末試験評価方法・評価基準

- ・製作途中のエレキギターの完成度をチェックします。
- ・授業の取り組み態度
- ・出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音響研究 I
担当講師名	吉岡俊一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はエンジニア、プロデューサーとして音源制作やライブ制作を中心に、音楽ビジネス業界において海外と国内で 20 年以上の経験があります。

授業内容

高品位のプロレベルの機材を揃えたスタジオにおいて実践的で、実習的な授業を展開。ミュージシャンとして知つておいた方が良い音響知識や技術を、いかにして世の中に流れれる音楽が作られていくかの過程を実際に体験しながら学習していきます、

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音響にまつわる知識や技術を音源制作に重きを置きつつも、ライブも含めた音楽を奏で、また作る行程を総合的に理解できることを目指します。

授業計画（1回目から 7回目）

- ① 音楽制作についての基本行程とその詳細の解説をします。
- ② 音楽をする上での「聴く力」の重要性と聴く力を身につける方法の解説をします。
- ③ スタジオの設備及び、音響機材等に関する基礎知識、使い方を説明します。
- ④ マイクとマイキングに関する基礎知識の説明と実習を行います。
- ⑤ 音響の観点からの一般的な楽器の説明とそのコーディング方法の解説と実習を行います。
- ⑥ レコーディングの実習を行います。
- ⑦ 中間試験：スタジオ内において、正しくマイクをパッチベイやマイクプリを経由し録音機材までつなげるかを実践してもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

正しい手順で回線表どおりにマイクを録音機材まで繋げるかを評価します。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧ 音源制作で一般的に使われている録音媒体 Pro Tools の基礎知識と使い方を解説します。
- ⑨ Pro Tools を実際に操作、実習してもらいます。
- ⑩ Pro Tools を使ってレコーディングを実際に行います。
- ⑪ Pro Tools を使ってレコーディングを実際に行います。
- ⑫ Pro Tools を使ってレコーディングを実際に行います。
- ⑬ Pro Tools 上での編集作業の解説と実習を行います。
- ⑭ Pro Tools 上での編集作業の解説と実習を行います。
- ⑮ 期末試験：Pro Tools を使って録音を行ってもらいます。

期末試験評価方法・評価基準

マイクから Pro Tools まで正しく接続ができ、録音できるかを評価します。
出席：40% 平常点 40% 試験：20%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	音響研究Ⅱ
担当講師名	吉岡俊一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はエンジニア、プロデューサーとして音源制作やライブ制作を中心に、音楽ビジネス業界において海外と国内で20年以上の経験があります。

授業内容

高品位のプロレベルの機材を揃えたスタジオにおいて実践的で、実習的な授業を展開。ミュージシャンとして知つておいた方が良い音響知識や技術を、いかにして世の中に流れれる音楽が作られていくかの過程を実際に体験しながら学習していきます、

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音響にまつわる知識や技術を音源制作に重きを置きつつも、ライブも含め、音楽を奏で、作る行程を総合的に理解できることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春楽器で学習した内容の復習と確認。
- ② ミキシング作業の基本的な概念と手法の解説をします。
- ③ ミキシングの実習：リスニングの重要性とルームの調整について解説します。
- ④ ミキシングの実習：EQの解説と実習を行います。
- ⑤ ミキシングの実習：リバーブ等のエフェクトについて解説と実習を行います。
- ⑥ マルチトラックでレコーディングされた音源をPro Tools上でミキシングします。
- ⑦ 中間試験：Pro Tools上でミキシングするためのセットアップをしてもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

Pro Tools 上でのミキシングにおいてインサートやAUX等を正しく設定できるかを評価します。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 生徒主導でのレコーディング実習のためにセッションの計画を立ててもらいます。
- ⑨ 計画に沿ってレコーディングを行ってもらいます。
- ⑩ 計画に沿ってレコーディングを行ってもらいます。
- ⑪ 計画に沿ってレコーディングを行ってもらいます。
- ⑫ レコーディングした音源を Pro Tools 上でのミキシング作業に向けて編集をしてもらいます。
- ⑬ Pro Tools 上でマルチトラックのミキシング実習を行います。
- ⑭ Pro Tools 上でマルチトラックのミキシング実習を行います。
- ⑮ 期末試験：ミキシングを行って作品を完成させます。

期末試験評価方法・評価基準

EQ、リバーブ等を使ってきちんとミキシング作業ができているかを評価します。

出席：40% 平常点 40% 試験：20%

特記事項

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	コンピューターミュージック I
担当講師名	井上善彬
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサポートギタリストとしても活動。広くロックやジャズ、ワールドミュージックの伴奏や、その他弦楽器の演奏、作編曲を行う実務経験があります。

授業内容

DAW ソフト Cubase を活用して MIDI の基礎を習得します。付属のソフトウェア音源 HALion Sonic SE を活用し、作品制作を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

MIDI データの入力の基本を理解し、学期末には課題となる楽曲のトラックを完成させることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① コンピューターの基本について、授業に必要な知識を確認します。
- ② Cubase の基本操作を説明します。音源の設定方法を学びます。
- ③ ドラムエディターを使い、8ビートの打ち込みを行います。
- ④ キーエディターを使い、単音のメロディの打ち込みを行います。
- ⑤ キーエディターを使い、和音やアルペジオの打ち込みを行います。
- ⑥ DAW の用語や MIDI の概念について学びます。
- ⑦ 中間試験：Cubase 及び MIDI の基礎知識に関する筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。

授業で学んだ Cubase の使い方を理解しているか、そして MIDI の基本的な知識を問います。

出席：40% 平常点： 20% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 課題曲を配布し、譜面に従って打ち込みを行います。
- ⑨ ステップ入力を使い、和音の入力を効率化します。
- ⑩ クオントライズ値を変化させて、三連符の入力を行います。
- ⑪ リアルタイム入力を使い、ギター特有の表現を習得します。
- ⑫ ベロシティで変化する音色について学び、スラップベースの入力を行います。
- ⑬ ドラムの表現方法を学び、よりリアルなサウンドを目指します。
- ⑭ キーボードショートカットを学び、作業の効率化を目指します。
- ⑮ 期末試験：課題曲の打ち込みをし、提出を行います。

期末試験評価方法・評価基準

作品提出を行います。

授業で学んだ Cubase の各種機能を活用できているか。また作品の完成度を評価します。

出席：40% 平常点：20% 試験：40%

特記事項

授業では、自分のデータを管理するための USB フラッシュメモリーが必要です。また、ヘッドフォンの用意もしてください（イヤホンと変換プラグでも可）

学科名	プロミュージシャン学科
科目名	コンピューターミュージック II
担当講師名	井上善彬
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサポートギタリストとしても活動。広くロックやジャズ、ワールドミュージックの伴奏や、その他弦楽器の演奏、作編曲を行う実務経験があります。

授業内容

MIDI ループやコードトラック等 Cubase の機能を更に活用し、臨場感のあるトラック制作を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

MIDI の理解を更に深め、作品制作に取り組みます。学年末には完成度の高いトラックを完成させることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① コードトラックの基本的な使い方を説明します。
- ② コードパッドを使い、コード演奏の録音をします。
- ③ MediaBay を活用し、MIDI ループについて学びます。
- ④ コードトラックに合わせて MIDI データを変化させる方法を学びます。
- ⑤ オートメーションを使い、フェードアウトやオートパンの表現を学びます。
- ⑥ Cubase 独自のショートカットを覚え、より効率的な操作を習得します。
- ⑦ 中間試験：Cubase 及び MIDI の応用知識に関する筆記試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を行います。

授業で学んだ Cubase の使い方を理解しているか、より専門的な知識を問います。

出席：40% 平常点： 20% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 曲の途中でテンポや拍子を変化させる方法を学びます。
- ⑨ MIDI エフェクターを使い、フレーズに変化を与える方法を学びます。
- ⑩ アルペジエーターを活用し、臨場感のあるサウンドを作ります。
- ⑪ サイドチェインを使い、エフェクターのかかり方を変化させます。
- ⑫ トランスポーズについて学び、曲の移調や転調を行います
- ⑬ マーカートラックを使い、作業の効率化を目指します。
- ⑭ オーディオミックスダウンを行い、データを音源化する方法を習得します。
- ⑮ 期末試験：課題曲の打ち込みをし、提出を行います。

期末試験評価方法・評価基準

作品提出を行います。

授業で学んだ Cubase の各種機能を活用できているか。また作品の完成度を評価します。

出席：40% 平常点：20% 試験：40%

特記事項

授業では、自分のデータを管理するための USB フラッシュメモリーが必要です。また、ヘッドフォンの用意もしてください（イヤホンと変換プラグでも可）